

昭和 62 年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
—麻薬犯罪取締セミナー—

昭和 63 年 3 月

国際協力事業団  
研修事業部

研 一
S.C.
88-28

122  
21.5  
TAF



昭和 62 年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
—麻薬犯罪取締セミナー—

JICA LIBRARY



1114164151

昭和 63 年 3 月

国際協力事業団  
研修事業部

財 政 部

國際協力事業團

支 出 簿



財 政 部

支 出 簿

## 序 文

この報告は、我が国が実施してきた集団研修「麻薬犯罪取締セミナー」に参加した帰国研修員に対するアフターケア業務の一環として、昭和63年1月25日から2月13日までの20日間、タイ、香港、韓国の3ヶ国に派遣した帰国研修員フォローアップチームの業務報告である。

本書が、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題、要望等について関係各位の一層深いご理解をいただくための一助となり、今後の研修コース、また研修員受入事業の改善に資することができれば幸いである。

なお、本件の実施のためにご協力を賜った外務省、警察庁及び現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館並びに関係機関に深甚の謝意を表する次第である。

昭和63年3月

研修事業部長

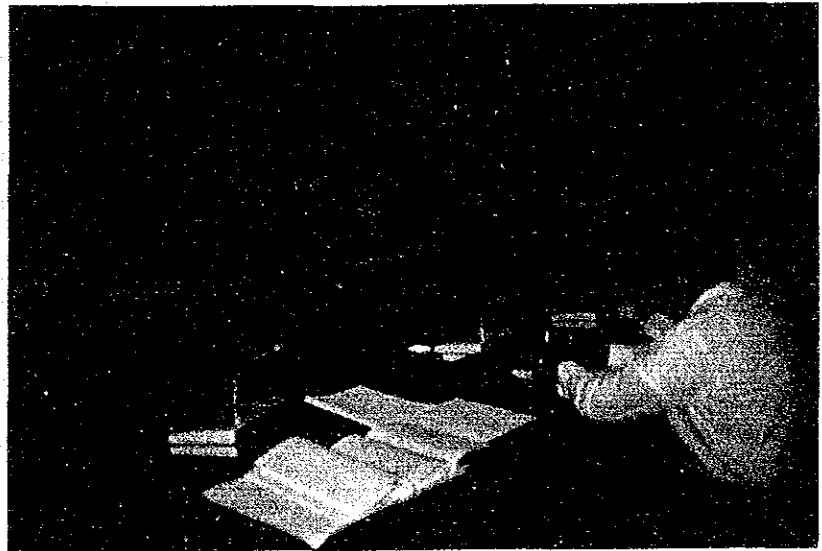
岡 部 和 夫





タイ国警察長官  
Pol.Gen. Pow Sarasin と  
の意見交換

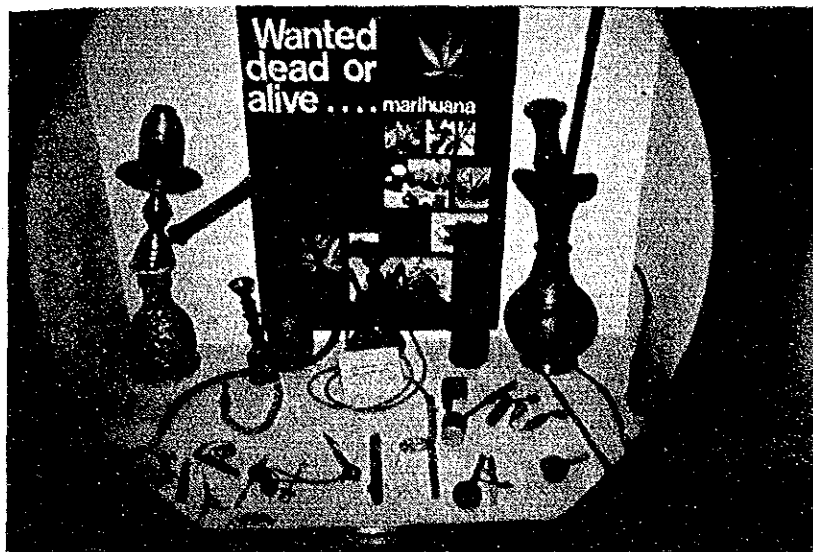
タイ国帰国研修員に対する  
公開セミナー



香港帰国研修員公開セミナー  
で挨拶する香港政庁訓練部  
所長 Mr.A.R.B.Kitchell

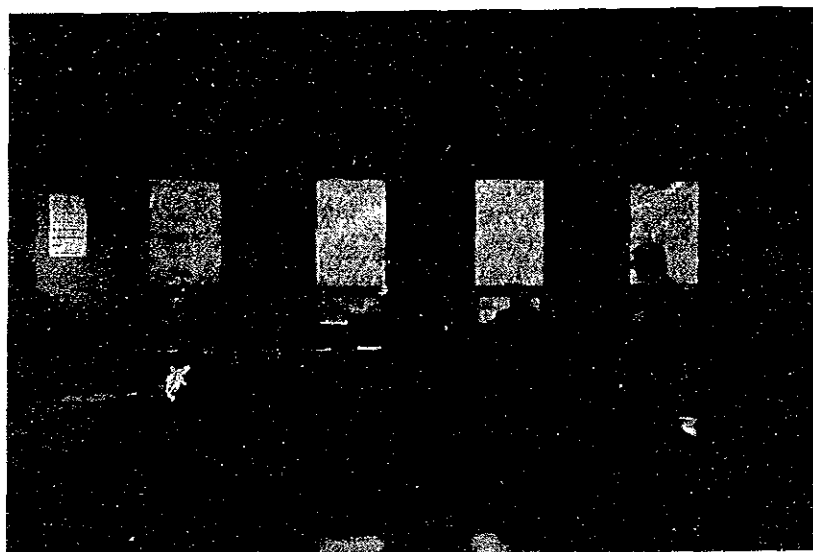
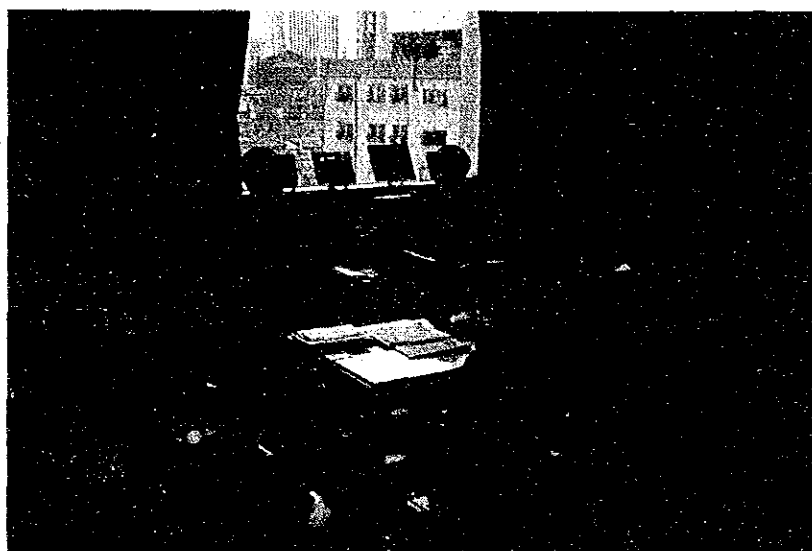






押収された麻薬吸引器具  
(香港警察博物館)

韓国治安本部外事部長  
Mr. Kim Ki-Soo との  
意見交換



韓国研修員に対する  
公開セミナー



# 目 次

I 派遣チームの概要	1
1. チーム派遣の目的	1
2. 団員構成	1
3. 調査日程	1
4. 主要面会者リスト	3
II フォローアップ調査内容	6
1. 調査T/Rと調査結果要約	6
(1) 調査T/R	6
(2) 調査結果要約	6
2. 当該国の研修候補者の募集・選考状況	6
(1) 技術協力窓口調査結果	6
3. 当該国の当該技術の現状と問題点	8
(1) タイ	8
(2) 香港	10
(3) 韓国	11
4. 日本で実施した研修の成果及び要望等	12
(1) 帰国研修員の現在の所属先、職位、業務内容	12
(2) Questionnaireの集計・分析結果	12
5. 当該研修コース改善への提言	14
III 技術指導内容	15
1. 実施状況	15
2. 実施内容	15
IV 添付資料	17
1. 当該コースの概要（62年度）	17
2. 当該国帰国研修員リスト	25
3. Questionnaire	35
4. 当該国訪問機関に提出した英文報告書	43
5. 現地セミナー配布資料	60



## I 派遣チームの概要

### 1. チーム派遣の目的

本フォローアップチームは麻薬犯罪取締セミナー（過去26回実施）に参加した帰国研修員の所属機関及び関係機関を訪問し、

ア. 現地での技術指導を行う。

イ. 我国で実施した研修の成果を測定する。

ウ. 当該分野に係る当該国の技術的問題点及びニーズを把握する。

の3つを行うことにより、今後の研修員受入事業ならびにフォローアップ事業の向上改善に資することを目的とする。

### 2. 団員構成

佐々木 安 夫	警察庁保安課警視（兼 神奈川県警保安課長）
大 成 隆 人	警察庁保安課警部補
野 末 雅 彦	JICA研修第一課

### 3. 調査日程

日順	月 日	曜日	日 程
1	1988年 1月25日	月	東京発 → バンコック (TG 641)
2	26日	火	JICA打合せ、大使館表敬 D.T.E.C表敬・意見聴取
3	27日	水	タイ国警察庁、内務省麻薬取締局 (ONCB) 表敬・意見聴取、公開 セミナー、懇談会
4	28日	木	バンコック → チェンマイ (TH 104) ONCBチェンマイ事務所表敬
5	29日	金	チェンマイ地区作物代替状況調査 (Thai-Norwegian Church Aid Highland Development Project)
6	30日	土	チェンマイ → バンコック (TH 101) 資料収集整理、帰国研修員との懇談会
7	31日	日	英文所見作成、資料整理
8	2月 1日	月	JICA・大使館報告 バンコック → 香港 (OI 804)
9	2	火	総領事館打合せ、香港政庁訓練部表敬・意見聴取

日順	月 日	曜日	日 程
10	2月 3日	水	香港政庁訓練部にて、公開セミナー、香港警察麻薬部、科学捜査研究所表敬、薬物取締方策状況調査
11	4日	木	ニューテリトリー地区税関表敬、薬物取締方策状況調査
12	5日	金	総領事館報告、帰国研修員との懇談会
13	6日	土	資料収集整理
14	7日	日	香港 → ソウル ( KE 618 )
15	8日	月	大使館打合せ、科学技術処表敬・意見聴取
16	9日	火	治安本部表敬、取締啓発活動調査、保健社会部表敬、公開セミナー 懇談会
17	10日	水	ソウル → プサン 総領事館表敬・打合せ
18	11日	木	プサン警察捜査課表敬・薬物取締方策状況調査 プサン → ソウル
19	12日	金	大使館報告
20	13日	土	ソウル → 東京 ( JL952 )

4. 主要面会者リスト (帰国研修員は別掲)

(1) タイ

日本国大使館一等書記官	岩 橋 修 氏
〃 二等書記官	川野辺 寛 氏
〃 〃	菊 川 正 博 氏
J I C A タイ事務所長	齋 藤 勉 氏
〃 事務所員	原 智 佐 氏
Mr. Krisada Piampongsant	Chief, Japan Sub-Division, Department of Technical and Economic Cooperation
Mr. Vasan Kanjun	Technical Service Division, Department of Technical and Economic Cooperation
Pol. Gen. Pow Sarasin	Director-General Royal Thai Police Department
Pol. Lt. Gen Savang Theerasawad	Deputy Director-General Royal Thai Police Department
Pol. Maj. Gen. Kraikus Sansuk	Assistant Commissioner Provincial Police Bureau Royal Thai Police Department
Pol. Maj. Gen Sompol Suthimai	Commander Head of N. C. B. Foreign Affairs Division, Royal Thai Police Department
Pol. Maj. Gen. Chavalit Yodmani	Secretary-General Office of the Narcotics Control Board
Pol. Maj. Gen. Koson Limpichart	Deputy Secretary-General Office of the Narcotics Control Board
Miss Siree Boonnak	Chief Foreign Affairs Division, Office of the Narcotics Control Board
Mrs. Anchalee Sirisabphya	Foreign Affairs Division, Office of the Narcotics Control Board
Mrs. Rassamee Vitavet	Assistant Chief, Narcotic Law Enforcement Division, Office of the Nar- cotics Control Board
Mr. Phuttipong Chantrawadee	Senior Narcotics Officer, Northern Narcotics Control Center, Office of the Nar- cotics Control Board
Dr. Richard Dickmann	Senior Advisor, Thai-Norwegian Church Aid Highland Development Project

Mr. Muninthorn	Director of TN-HDP Project, Ministry of Health and Welfare
Mr. Kamol Thaiyapiroivi	ONCB-Coordinator, TN-HDP
(2) 香 港	
日本国大使館首席領事	齊 藤 正 樹 氏
"    領事	佐 野 光 昭 氏
"    "	末 井 誠 史 氏
"    館員	小 宮 基 康 氏
Mr. A. R. B. Kitchell	Director, Civil Service Training Centre
Ms. Jennie KWONG	Senior Training Officer, Civil Service Training Centre
Mr. TSANG Yam-pui, CPM	Chief Staff Officer, Narcotics Bureau, Royal Hong Kong Police
Mr. YIP Kwok-keung	Senior Staff Officer, Narcotics Bureau, Royal Hong Kong Police
Dr. WONG Yan-shing	Senior Chemist, Forensic Science Division, Government Laboratory Hong Kong
Dr. KO	Senior Chemist, Forensic Science Division, Government Laboratory Hong Kong
Mr. W. K. KONG	Regional Commander, New Territories, Customs & Excise Department, Hong Kong
Mr. WU Kwai-hung	Deputy Regional Commander, New Territories, Customs & Excise Department, Hong Kong
Mr. LAM Pui-ming	Assistant Superintendent, New Territories, Customs & Excise Department, Hong Kong
(3) 韓 国	
日本国大使館参事官	浦 部 和 好 氏
"    "	加 藤 孝 雄 氏



日本國大使館建設駐在官	周 藤 利 一 氏
"      館員	張 東 花 氏
在釜山日本國總領事館總領事	沼 田 順 氏
"      領事	齋 藤 篤 氏
"      "      "	谷 孝 祐 氏

Mr. Chang Sung-Tae	Director-General for technical Cooperation Ministry of Science & Technology
Mr. Ho Nam	Director, Bilateral Research Cooperation Division Ministry of Science & Technology
Mr. Yoon Hean-Joo	Assistant Director, Bilateral Research Cooperation Division Ministry of Science & Technology
Mr. Kim Ki-Soo	Director, Foreign Affairs Bureau National Police Headquarters
Mr. Chung Ki-Bok	National Police Headquarters
Mr. Jung Yong-Jin	Director, Narcotics Division Bureau of Pharmaceutical Affairs Ministry of Health and Social Affairs
Mr. Park Hee-Myung	Director, Investigation Division Pusan Police Bureau
Mr. Jun Ho-Chul	Director, Foreign Affairs Division Pusan Police Bureau
Mr. Choi Jong-Young	Captain Investigation Division Pusan Police Bureau

## Ⅱ フォローアップ調査内容

### 1. 調査 T/R と調査結果要約

#### (1) 調査 T/R

当該国の研修候補者の募集・選考等、当該国の当該技術の現状と問題点、日本で実施した研修の成果、要望等

#### (2) 調査結果要約

##### 1) 当該国の研修候補者の募集・選考等

いずれの訪問国においても、技術協力窓口が募集・選考事務を一元的に取扱っており、通知先関係機関の選定、GIの配布、最終候補者の決定を行っている。選考については各国とも書類審査のほか、面接、筆記試験（特に英語力）等を実施している。

##### 2) 当該国の当該技術の現状と問題点

タイ、香港においては、あへん、ヘロインを中心とする麻薬関係事犯が大きな問題となっており、その対策として、タイにおいては作物代替政策等を実施しているほか、香港では報償金制度も取り入れ麻薬犯罪の撲滅に取り組んでいる。また、韓国においては覚せい剤乱用が一般市民層に拡大しつつあり、警察当局も重大な懸念を表している。

##### 3) 訪問国における研修に対する評価と要望

帰国研修員の活動実績を大きく評価しており、麻薬犯罪取締りセミナーの今後の継続を期待するとともに受入幅の拡大を要望している。

##### 4) 帰国研修員の現況と要望

我が国で修得した技術を各地で生かし、活動成果をあげている。日本における研修は日程も内容もよく満足しているが、麻薬犯罪撲滅のためには、国際的情報交換及び国際協力が不可欠であり、研修員は、麻薬取締りに関する最新資料及び教材のほか他国の帰国研修員の現況に関する情報の提供を求めている。

### 2. 当該国の研修候補者の募集・選考状況

#### (1) 技術協力窓口調査結果

##### 1) タイ

タイにおける技術協力の窓口は、技術経済協力省（D.T.E.C.）であり、我々は、クレサダ日本担当課長等と面接し調査を行った。D.T.E.C.では、技術研修の割当につき2週間に一度委員会を開催しており、情報の検討、関係先機関の考慮について意見交換を行うほか、募集先の決定、募集先機関から推薦された候補者について、最終決定を行っている。GIの配布は、最も取締りに関係の深いONCB（麻薬取締局）及び警察に対して行っている。

募集先の選考方法については、通常、経験、平素の仕事ぶり等を見て上司が決定する指名方式を採っている。D.T.E.O. では複数で上がってくる候補者に対し、足切りのための英語の試験（トイフルで60点が最低基準）を実施しており、最終選考でも優劣つけがたい場合は英語の点の高い順から2名を取る等英語力に不足のないよう配慮していた。応募は活発で、関係省庁もその立場をかけて推薦を行ってくるため、候補者をD.T.E.O. の段階で優先順位をつけて回答することはなかなか困難な状況にあるとのことであった。

## 2) 香 港

香港では香港政庁訓練部が受け入れ窓口であり、キツェル部長から募集、選考事務に関する説明を受けた。同部は香港の全公務員に対する教養訓練を所掌しており、海外研修を含め年間1万人以上に対して研修を行っている。部長は、香港にはJICAの技術協力コースの割当が年間20コースしかないが、麻薬セミナーについてはその少ない割当のうちから必ず1名を出すこととしていると述べ、麻薬セミナーは重要なコースとして認識されていた。募集選考状況については、政庁訓練部では関係機関である警察、税関に対し募集を行っており、それを受けた警察、税関は最もセミナーの効果を発揮できるよう、経験、ポスト、人間性等を考慮し、指名方式により優先順位を付けて推薦を行っている。訓練部ではその推薦を待つ候補者を選出しているが、最終的な推薦者の決定は行っていない。また、香港では、準高級コースの対象となる警視クラスについては、昇任の際英語の試験が行われることから、英会話能力に関する問題は少ないものとなっている。なお、我々が政庁訓練部を訪問した際、JICAの帰国研修員が講師としてコンピュータ操作の講義を行っており、日本での研修の成果を大きく役立てていたのが印象的であった。

## 3) 韓 国

科学技術処のチャン技術協力部長と面接した。部長はまず麻薬セミナーの開催及びJICAのフォローアップ事業に感謝の意を表すとともに、将来は韓国でも技術協力を実施することを考えており、その際はぜひJICAの方法を学びたいと述べていた。また、麻薬セミナーについては、韓国でも麻薬犯罪に対する取締り強化の必要性があり、科学技術処でも大きな関心を持っているコースとのことであった。さらに、部長から韓国に対するJICAの技術協力事業が減少の傾向にあるところから、今後減少することのないよう引き続きの協力を願いたい旨の要望があった。

募集状況については、科学技術処が関係機関を考慮、選抜して応募を行い、関係機関の推薦を待つ候補者の選考を行う方式を採っている。通知を受けた関係省庁では、職務との関連性、平素の勤務ぶりを考慮し優先順位をつけて推薦を行っている。現在セミナーの募集先となっている省庁は、保健社会部、治安本部（警察）であるが、科学技術処が各省庁に対する年間割当を決定する権限を有していることから、最終的にどの省庁から行かせるかは同処

の裁量にかかっている。研修参加者については、科学技術処としては現状の準高級コースが望ましいとしているが、準高級の場合、推薦が複数あったときには、各省庁の立場を考慮するため、候補者を一人に限定することあるいは優先順位を付けることが困難となることから、現在では交互に出席させる等振り分けを行っているとのことであった。

### 3. 当該国の当該技術の現状と問題点

#### (1) タイ

##### 1) 薬物乱用の現状

タイにおける薬物問題は依然としてヘロインが主流となっており、対策もヘロイン中心のものとなっているが、大麻も大量の押収を見せているほか、錠剤状の覚せい剤（メタアンフェタミン）である「ヤーマー」の乱用が新たな問題として急速に浮上してきている。覚せい作用を有する植物の葉であるクラトム（Kratom）は押収量は多いものの、疲れを癒すための自己使用目的の栽培が多く、重大な問題とはなっていない。

##### a. ヘロイン

タイ北部山岳地帯はいわゆる黄金の三角地帯の一角をなしているところから、けしの不法栽培問題、ヘロイン精製所問題、国内通過拡散問題、乱用者問題等ヘロインに起因する問題は深刻なものとなっている。けしの不法栽培地帯は黄金の三角地帯をはじめ中国にも広がりを見せている状況にあり、ヘロインの精製所もタイ、ビルマ国境地帯に18か所が存在している。また黄金の三角地帯の年間あへん生産量は約1,000トンといわれ、その70%がビルマ、20%がラオス、10%がタイ領内における生産となっている。また、バンコクが国際交通の要所に当たっていることから、タイは自国内で生産されるヘロインのほか、外国産ヘロインも通過をしていく通過国としての一面も有しており、大量のヘロインが国内に流入している状況にある。

##### b. 覚せい剤（ヤーマー）

最近タイ国内で新たな問題を生じている薬物で、成分はアンフェタミンである。形状は赤茶っぽい錠剤で、大きさはタバコの直径よりやや小さく、1個5バーツ（約25円）で密売されている。「ヤーマー」とはタイ語で元気の出る葉の意味で、ガソリンスタンド、ドライブイン、薬局等で密売され主にタクシー、トラック運転手、売春婦等により乱用されている。タイ国内（バンコク周辺）でも密造所が発見されておりタイ人が逮捕されているが、捜査当局の話ではヤーマーの製造は中国人（台湾人）が行っており、彼らは製造時のみ来タイし、製造後は直ちにタイを離れるため、検挙は極めて難しいとのことであった。

##### c. クラトム

クラトムは覚せい作用を有する樹木の葉であり、タイ中部の農村部に多く見られる。裁

培は違法であるが、タイは熱帯のため昼間帯は非常に熱くなることから、屋外作業の多い農夫が疲労回復のため用いる例が多い。新鮮な葉を嚙んで使用するが、覚せい作用は新鮮な葉しか有しないことから、輸出され他国に危険を及ぼすことは少ないものとなっている。

## 2) 関係機関の状況

タイにおける薬物事犯の取締りは、首相を長とし、警察長官、税関長官、麻薬取締局（ONCB）長官を委員とする麻薬取締委員会（NGB）が最高機関となっており、その下に同委員会の事務局兼執行部隊でもある麻薬取締局（ONCB）がある。ONCBは関係する警察、軍、税関等の調整を行い、事象ごとにどの機関に任務を遂行させるべきか判断し、必要な調整を行っている。ONCBは総員200人程度の小さな組織ではあるが、関係機関に係官を常駐させ情報交換等を行うとともに、その指示は首相の命令に基づくものとされ、調整に必要な権限を付与されている。

また、現在コンピュータによる情報管理がONCBの手で進められているが、使用されているコンピュータはオーストラリア政府の援助によるものであり、後に述べる作物代替政策とともに各国の援助の活発さを実感した。

ヘロイン生産地に対する取締りは非常な危険を伴うため、取締りは準軍事的性格を帯び、主として軍と警察の共同作戦により行われている。一方、国内通過のヘロイン、密売に関する取締りはONCB、警察により行われているが、おとり捜査、尾行、張り込み等日本同様の捜査手法をとっており、無線機を片手にしたONCB職員をよく見掛けたものであった。

## 3) 作物代替政策

作物代替政策は、けしを栽培する山岳移動民族であるメオ族、カレン族等を土地に定着させ、けしに替る作物の栽培を奨励し、けし栽培をやめさせようとする政策である。現在タイ王室のほか米国、西ドイツ、ノルウェー政府がチェンマイ地区を中心とするタイ北部山岳地帯のけし栽培地帯にたいして援助を行っている。我々はそのうち、ノルウェーが援助している「タイーノルウェー山岳地帯開発計画」の現場を訪問した。

チェンマイ地区の最も近い作物代替現場は、チェンマイ都市部から車で約2時間（平坦な舗装道路を時速約120kmで）、ラオス、ビルマ国境から約200km離れた地点に位置する国立公園の入口から、さらに雨期の陥没の残る悪路を約2時間進んだところに所在していた。付近一帯の土質はラテライトと呼ばれる水分を蓄えられない赤土のため、乾期には粉末状、雨期にはすぐぬかるみ状となり、車による接近を極めて困難なものにしている。

過去けしが栽培されていたという場所は山の裏側ではあるが、日当たりがよく、けし栽培当時開墾された跡がそのまま残っていた。現在はキャベツ畑、水田が広がっており、地域によりコーヒー畑、柿園等となっていた。付近に軍事施設ができたため現在は車で来ることが出来るが、それまでは山麓から徒歩で2日間かかる場所であったという。農耕地域はメオ、ラ

オ、カレン族等のけし栽培民族ごとに作られている。我々の訪問時はちょうどキャベツの収穫期であり、キャベツの出荷現場を見掛けたが、1かご約3.0～4.0個入ったものが7パーツとのものであり、1.6kg当たり約6,000～7,000パーツで取引される生あへんとは比較の対象とはならないものであった。

この地区の作物代替計画は、2年前まで国連開発計画（UNDP）の援助により行われていたものであるが、国連開発計画がその10年計画を終了した後、ヘロイン乱用に悩むノルウェーの教会の基金により事業が引き継がれた地域である。作物代替政策はかなりの規模で行われているが、民族の移動とともに伝統的けし栽培、使用を容易に禁ずることはできず、栽培側は強い抵抗を示し、取締りを受けるとさらに奥地へと栽培場所を移し、それを伐採しようとする軍、警察との衝突はまさに戦争状態を呈するものとなっている。また栽培側は、伐採に対する報復も行っており、我々の訪問一週間前にも国境地帯警備の警察官7人を射殺する事件が発生したばかりであった。

我々の案内に当たったのは、国連開発計画（UNDP）による援助が行われていた当時から同地域の作物代替方策の実施責任者であった米国人であったが、現在中国政府が作物代替政策に関心を示しており、本年5月には訪中し、雲南省を中心に現地調査を行う旨述べており、山岳民族によるけし不法栽培問題はかなりの広がりを見せているとの印象を受けた。

## (2) 香 港

### 1) 薬物乱用の現状

香港において最も乱用されている薬物はヘロイン、特に粗製ヘロインであるNo.3ヘロインである。ヘロインは香港の乱用薬物の約98%を占め、残りは大麻、メタカロンがそれぞれ1%となっている。香港では、No.4ヘロインを1986年79.25kg、1987年157.02kg、No.3ヘロインを1986年322.13kg、1987年は343.23kg押収しており、特にNo.4ヘロインの押収量の増加が目立っている。

これは、今日黄金の三角地帯では、世界の主流となっている上質のNo.4ヘロインの生産を増加させる一方、香港では伝統的にNo.3ヘロインが好まれることから、香港の密輸業者は供給の豊富なNo.4ヘロインを輸入し、それをNo.3ヘロインに変換するという方法を採用している。No.4ヘロインからNo.3ヘロインの変換は単純な装置の使用により簡単にできるうえ、増量させることから莫大な利益を生むことができるものとなっている。

香港におけるヘロイン密輸は、海空港、そして中国との国境から行われている。大規模な密輸は海路、タイの漁船を利用して行われており、100kg単位での密輸が行われている。そのため、香港警察では、タイ漁船に関する密輸情報には最高100万香港ドル（約1,700万円）の報償金を提供している。また、取引、密売についての情報に対しても、その内容、結果に応じ報償金を出しており、情報を中心とした捜査を行っている。

また催眠鎮静効果を生ずるメタカロン含有の錠剤マンドラックスが、ヘロイン中毒者によりヘロインの代用品として乱用されており、大きな問題を生じている。マンドラックスは中国を生産地とし、国境地帯から大量に流れ込んできている。1986年には約27万錠を押収しているが、事態を憂慮した香港当局は中国政府にメタカロン規制の申し入れを行い、以後メタカロンの流入は減少しつつある。

## 2) 関係機関の状況

香港には、1,050平方キロの面積に約550万人が居住しているが、人口の大部分は都市部の高層アパートを住居としており、いわば一種の密室社会ともいえる社会を形成している。そのため、住民の把握が困難なうえ、香港には我が国のような戸籍制度が存在しないことから、警察の取締り活動は非常に困難なものとなっている。

香港では警察と税関が薬物取締りの中心機関であるが、税関も警察同様の捜査権を有していることから、両者は通常は別個の活動を行っている。しかし、タイ漁船による密輸事犯等大規模事案の場合には、両者合同で捜査に当たっている。

我々は香港警察麻薬部、中国との国境を管轄する新海地区の税関施設を訪問したが、警察麻薬部では廊下の壁面に過去の密輸手口、世界の薬物の流れ等を掲示し、訪問者に香港の麻薬問題の深刻さを目で見て理解できるようにしているほか、取締り活動、乱用薬物についてのパンフレット等を多数作成する等非常に活発な広報活動を行っていた。また、新海地区の税関施設では、1997年の中国本土復帰を控え、既存の施設が交流の活発化から過密状態となってきたため、アクセス道路の建設を含んだ新たな税関、入国管理のための施設を建設しつつあるほか、密輸防止対策として中国税関との情報交換の強化に努める等今後の対応の充実に努めていた。

## (3) 韓 国

### 1) 薬物乱用の現状

韓国では、ヘロイン等の麻薬関係事犯は、1956年以降根絶状態にあり、大麻の乱用は、1976年以降は減少傾向にある。しかし、覚せい剤事犯は1970年ころから国内に波及しはじめ、強力な取締りにもかかわらず急速に増加し、現在は接待婦の間に広がりを見せるとともに主婦、青少年等一般市民層にまで浸透を始めている。価格は1gあたり、約3万から20ウォン(5,000～33,000円)であるが、最近はキロ単位の押収が相次ぐ状況となっている。

### 2) 関係機関の状況

韓国における薬物事犯捜査は、大検察庁の管轄下に、各地方検察庁があり、麻薬担当検事の指揮の下に、保健社会部の捜査員、警察、税関が捜査を行っており、麻薬事犯の検挙は90%以上が検察庁で検挙している。全国の保健社会部に検察庁が指定した麻薬捜査官を派遣し、取締りの強化を図っているが、これの配置は、全国で268人である。また、覚せい剤事犯

に対しては、身柄を拘束して捜査を行っているが、組織的、常習的な者に対しては法定最高刑を科している。現在、罰則の強化及び原料管理強化のための法改正を考慮中である。我々が訪問した治安本部、釜山市警では、より強力な取締りを推進してゆくためには、いままで十分とは言えなかった警察官に対する覚せい剤の教養を強化し、警察も本格的に覚せい剤事犯対処に乗り出す必要があると述べていた。

#### 4. 日本で実施した研修の成果及び要望等

##### (1) 帰国研修員の現在の所属先、職位、業務内容

帰国研修員の現在の所属先、職位、業務内容については別添のとおりであるが、タイ、香港ではそのほとんどが麻薬取締りに従事している反面、韓国警察においては英語能力のある捜査官が不足していることから、麻薬取締分野だけではなく、外事犯罪捜査、I C P O 担当として経験を生かしていた。

##### (2) Questionnaire の集計・分析結果

Questionnaire は、タイでは対象帰国研修員 21 名中 12 名、香港では 13 名中 7 名、韓国では 13 名中 8 名分を回収した。

集計の結果は別添のとおりであるが、分析の結果は大部分が「コースの内容は適切であった」としているほか、成果についても国内外の捜査のみならず、教養訓練にと広範にわたり発揮されているが、研修員相互の交流については活発な状況にあるとは言えず、今後の活性化が期待された。

#### Questionnaire の集計・分析結果（抜粋）

##### 第 I 参加セミナーについて

1. あなたが参加したセミナーは、あなたの仕事に有益なものでしたか？	タイ	香港	韓国	計（％）
①□ 大変有益	① 8名	① 4名	① 4名	① 16名 (57.1%)
②□ 有益	② 4名	② 3名	② 4名	② 11名 (39.3%)
③□ それほどでもない	③ 1名			③ 1名 (3.6%)
④□ 役にたたない				
	13名	7名	8名	
2. あなたは、セミナーで得た知識、経験をどのように生かしていますか？	① 7名	① 1名	① 3名	① 11名 (37.9%)
①□ 日常の法執行業務	② 3名	② 5名	② 2名	② 10名 (34.5%)
②□ 国際捜査及び国際協力の実施	③ 4名	④ 2名	③ 2名	③ 6名 (20.7%)
③□ 学校教養	④ 1名		④ 1名	④ 2名 (6.9%)
④□ 訓練及びセミナー活動				
⑤□ 報告書の作成や法執行関係書への寄稿	(複数回答あり)	(複数回答あり)		



3. セミナーの今後の発展のため、意見、提案等を聞かせて下さい。	タイ	香港	韓国	計 (%)
ア 期間について	① 適切 10名 ② 2ヵ月 3名	① 適切 6名 ② 6週 1名	① 適切 7名 ② 3ヵ月 1名	—
イ 参加者について	① 取締経験の豊富な者 ② 1国から2名の参加 ③ 同一の薬物問題を有する国	① 取締機関員に限るべき ② 取締経験の豊富な者	① 準高級コースでよい	—
ウ 課目について	① 財務捜査、コンピュータ利用による調査、分析手法 ② 薬物鑑定技術	① 合同取締り、情報交換の迅速化等国際協力強化方策	① 薬物鑑定技術 ② 薬物事犯と組織等力との関連	—
エ その他	① JICAは在外日本公館の主催で、その年の研修修了者による帰国研修員に対する報告会の実施 ② 帰国研修員に対する再訓練の実施	① 後継者育成方策	① フォローアップのための資料、教材等の提供 ② 帰国研修員の現況についての情報提供	—

## 第2. 薬物取締りに関する日本の技術協力についての質問

あなたは日本の薬物取締りに関する技術協力はどのようにあるべきと思いますか。	① 3名 ② 1名 ③ 9名	① 3名 ② 1名 ③ 3名	① 3名 ③ 3名 (未回答あり)	① 9名 (34.6%) ② 2名 (7.7%) ③ 15名 (57.7%)
①□ 薬物捜査に関する装備資器材の提供も含むべきである。				
②□ 薬物統制に役立つ知識を持った職員の派遣も含むべきである。				
③□ 上記両者を含むべきである。				

## 第3. 帰国研修員相互の交流についての質問

1. あなたは、自分の国の他の研修員の名前を知っていますか？	① 4名 ② 9名	① 3名 ② 4名	① 3名 ② 5名	① 10名 (35.7%) ② 18名 (64.3%)
①□ はい。ほとんど知っています。				
②□ はい。知っていますが、それほど多くありません。				
③□ 知りません。				
2. あなたは、国内、国外の帰国研修員と情報交換を行っていますか？	① 4名 ② 6名 ③ 3名	① 3名 ② 2名 ③ 2名	① 1名 ② 4名 ③ 3名	① 8名 (28.6%) ② 12名 (42.8%) ③ 8名 (28.6%)
①□ はい。国内外の人と行っています。				
②□ はい。国内の人と行っています。				
③□ 行っていません。				

8. あなたは、自分の国の帰国研修員と集まりを持っていますか？	タイ	香港	韓国	計 (%)
	①□ はい。持っています。	① 1名		② 1名
②□ 現在、計画しています。	② 2名	② 1名	③ 4名	② 4名 (16.7%)
③□ 持っていません。	③ 9名	③ 6名		③ 19名 (79.1%)

#### 5. 当該研修コース改善への提言

##### 面接調査及びQuestionnaireの回答の結果

- (1) 期間については「適切」とするものが大部分であったが、より長期を望むものも目立った。
- (2) 研修参加者については、タイ、香港において受け入れ人員の拡大について強い要望があったが、各国からの多数の参加希望がなされていることから、増員は困難である旨を説明した。また、参加資格につき、取締りに直接従事するものに限るべきあるいは薬物事犯取締り経験の豊富なものが望ましいとの要望があったため、63年度のセミナーの資格要件には「薬物法執行経験3年以上」を追加し、参加者の充実を図っている。
- (3) 研修内容については、現在の内容に満足しているとするものが多数を占めていたが、国際間における合同捜査の推進、情報交換の迅速、円滑化等国際捜査協力のより一層の強化対策、コンピュータ利用による調査分析手法、最新の薬物鑑定方法に関する講義、意見交換を望む意見が出された。
- (4) 帰国研修員に対するアフターケア、リフレッシュを求める声が非常に多く、今後必要な資料、教材を送付する必要が認められた。  
また、普及に関し「JICA又は在外日本公館の主催で、その年の研修者による帰国研修員に対する報告会を開催し、研修の成果の普及を図るべき」との注目すべき要望があった。
- (5) また、薬物取締りに関する我が国の技術協力については、薬物事犯捜査に必要な装備資機材の提供、専門家の派遣の双方を含むべきとの意見が多数を占めていた。

### Ⅲ 技術指導内容

#### 1. 実施状況

##### (1) タイ

1月27日午後2時～4時30分、麻薬取締局（ONCB）会議室において帰国研修員11名、税関、ONCB職員ら6名計17名を集めて実施。

##### (2) 香港

2月3日午前9時30分～12時、政庁訓練部会議室において帰国研修員6名他税関職員5名計11名を集めて実施。

##### (3) 韓国

2月9日午後2時～4時30分、保健社会部会議室において、帰国研修員9名他保健社会部麻薬課長の参加を得て実施。

（帰国研修員の中には退職した者も多く、また、各地に転勤になっている者もいて、予想した数を下回ったものとなった。）

#### 2. 実施内容

##### (1) 講師

佐々木安夫（チームリーダー）

大成 隆人

##### (2) 講義内容

「日本警察の概要及び現況」、「日本における薬物取引」

##### (3) 使用テキスト

1) Police of Japan（ビデオ）

2) Drug Trafficking in Japan, 1987

3) Anti Drug Activities in Japan

#### 3. 参加者との質疑応答内容（要約）

- (1) タイ、香港においては、ヘロインの乱用が重大な問題となっていることから、我が国に何故ヘロイン乱用者が少ないのかについて質問が集中した。よって、我が国にも昭和30年代に深刻なヘロイン乱用期が存在し、取締り関係罰則の強化、強力な取締りの推進、官民一体となった乱用防止啓発活動、教育活動の推進によりこれを鎮静化させた経験のあること、また、国民一般にもヘロイン乱用の恐怖が行き渡っている旨を説明し、強力な取締りと合わせて国民に対する教育活動の必要性について述べた。

(2) 韓国においては、韓国が日本への覚せい剤密輸出国の一つであることから、我が国の国際捜査体制の現状について質問があった。当方からは、フィリピン当局の協力を得てフィリピンに逃亡中であった覚せい剤密輸入被疑者を逮捕し、その身柄の引渡しを受けた事例、我が国の情報提供による国際的覚せい剤密造グループの主犯のフィリピンにおける逮捕事例等を説明した。

## Ⅳ 添付資料

### 1. 当該コースの概要（62年度）

#### (1) コース名等

- 1) コース名（和文）：第26回麻薬犯罪取締セミナー  
（英文）：The 26 th Seminar on Control of Narcotic Offences
- 2) 期 間：昭和62年8月25日（火）から9月11日（金）までの18日間
- 3) 定 員：18名

#### (2) 目的・背景

##### 1) 目 的

薬物の乱用は、世界各国で直面している共通の問題となっており、各国において薬物犯罪の取締りや薬物禍防止のための施策が積極的かつ強力に推進されている。しかし薬物犯罪は国際性が強く、これを根絶するためには一国だけでなく、国内外で出来る限りの対策を実施することが不可欠なものとなっている。

また、昨年5月東京で開催された「先進諸国首脳会議」では、麻薬問題が政治議題に取り上げられ、東京宣言において麻薬問題の重要性と国際協力の必要性が表明されるなど、世界の世論は薬物問題について急速な高まりをみせている。

このような現状から今回の「麻薬犯罪取締りセミナー」は、関係各国の麻薬取締機関の上級幹部の参加を得て、麻薬問題に関する研修及び施策の協議を行なうことにより、有効適切な施策を見出すとともに、関係各国相互間の理解と協力関係を一層深め、薬物乱用犯罪の根絶に寄与しようとするものである。

##### 2) 設立年度及び経緯

昭和37年以来毎年度開催（第26回目）

#### (3) 到達目標

本セミナーでは、前述の開催目的を達成するため次の点を目標とする。

- 1) 日本及び参加各国が、それぞれ薬物犯罪の現状を認識し、各種の取締り施策について情報の交換及び相互理解の促進を図る。
- 2) 薬物禍根絶のため取締り施策について研究、討議を行い、問題点の所在の把握とその解決方策を検討する。
- 3) 研修員相互の親睦を深め、国際的連帯感や協力精神を涵養する。

#### (4) 研修項目、研修方法

- 1) 研修項目、別添日程表のとおり
- 2) 研修方法と項目

## 1. 講 義

ア. 日本警察の概況

イ. 日本の薬物取締機構法令

ウ. 日本の薬物犯罪及びその取締りの現状

エ. 日本における国際捜査協力の現状

## 2. 見 学

警察関係施設

税 関 等

## 3. カントリーレポートの発表と討議

## 4. 総合討議

### (5) 研修員参加資格要件

#### 1) 応募条件

アジア及び中南米諸国で麻薬犯罪取締りを統括する中央機関の長。

#### 2) 選考基準

応募条件による。

#### 3) 割 当 国

ネパール、モルディブ、インドネシア、韓国、マレーシア、バングラデシュ、フィリピン、  
パプア・ニューギニア、スリ・ランカ、タイ、香港、ブルネイ、ボリヴィア、コスタ・リカ、  
サウディアラビア、ザンビア、パナマ、ブラジル、セントルシア、フィジー、ペルー  
( 21 カ国 )

### (6) 研修実施体制及び運営

#### 1) コース運営の仕組み

本件セミナーは、警察庁（国際捜査研修所、保安部保安課）と国際協力事業団の協力によ  
り、関係都道府県警察等の支援の下に、実施、運営されている。

#### 2) コースリーダー等の配置

ア. コースリーダーは、本セミナーにおいては配置しない。

イ. 研修監理員は必要人員配置する。

#### 3) 直轄、委託方式の区分

直轄方式による。

### (7) 研修施設

#### 1) 研修員受入先

警察庁保安部保安課

#### 2) 宿泊及び研修施設

東京国際研修センター

〒151 東京都渋谷区西原2-49-5

電話(03) 485-7051(代表)

(8) 研修教材・資機材

1) 教材

ア. Drug Control Legal System in Japan

イ. Police of Japan

ウ. Drug Problem in Japan

2) 資機材

オーバーヘッド・プロジェクター、スライド・プロジェクター、テープレコーダー、タイプライター、等

(9) 研修付帯プログラム

1) 集合ブリーフィング(1日間)

来日事務諸手続、滞在費等諸手当の支給手続、日常生活の一般的留意事項のほか、セミナーの目的、日程、内容、方法等につき詳細説明のうえ、周知徹底をはかり、あわせて研修員の要望等も聴取し、セミナーの実施、運営の円滑化を計るため集合ブリーフィング及びオリエンテーションを来日の翌日に、東京国際研修センター(TIC)において実施する。

(10) 研修の評価

セミナー実施の目的、目標達成度合について適確に把握するとともに、今後の有効なセミナー運営の参考に資するため、次のとおり評価会等を実施する。

1) 最終評価会

所定のファイナル・レポートを提出せしめるとともに、セミナー全体の成果について、感想、提案を求めるために、討論形式により意見交換を行う。

2) 反省会

提出された報告書類、講師の意見、見学先の感想、評価会における発言等を総合的に分析し、本セミナーの評価を確定するとともに、実施報告書の作成および次回セミナーの基本計画の改善をはかるために、協議する。(研修員帰国後)

(11) その他

1) オブザーバー等の参加

アメリカ、カナダ、イタリア、西独、オランダ、オーストラリア、イギリス、フランス、ICPOの8カ国、1機関9名のオブザーバーに出席を求める予定である。

2) 事務局の開設

セミナー期間中、セミナー会場内に事務局を開設し、講師の控室、事務局員の打合せ、待

機場所および教材、資機材、タイプライター等の事務機材、事務用品、参考資料の使用、保管場所として利用する。

3) 警察電話の臨時架設

セミナー期間中（8/25～9/11）警察庁は、事務局内に、警察専用電話を同庁の責任と経費負担のもとに、臨時架設する。

4) 議事録の作成

議事録を作成し、参加者や所属機関および国連麻薬部、コロンボ・プラン事務局等の関連国際機関に送付する。議事録の送付は、特に警察庁により実施される。

付 録 1. セミナー日程表

2. セミナー関係機関および関係者リスト

3. 国別研修員参加実績表



付録 1.

第26回(1987年)麻薬犯罪取締りセミナー日程表

月・日	曜	前		後		備考	
		9:30～10:40	10:50～12:00	13:30～14:40	14:50～17:00		
8.27	木	開講式 (11:00)		日本の薬物の取締機構法令 (保安課長)	国際捜査協力について (国刑課長)		
28	金	日本の薬物鑑定と捜査 (井上主任研究員・薬対室長)	討議 1 国際捜査協力・犯罪手段の現状と捜査手法 (神奈川県警)	討議 2 (愛知県警)	討議 3 (大阪府警)	長官レセプション	
31	月	日本の暴力団について	討議 4 1～3 同 (警視庁)	討議 5,6 税関等関係機関との協力 (薬対室長)			
9.1	火	研修員発表					
2	水	研修員発表		警視庁見学			
3	木	研修員発表					
4	金	研修員発表			評価会		
7	月	研修旅行 神戸税関 兵庫県警 京都府警					
8	火						
9	水						
10	木	閉講式 (11:30～12:00)		解散 (12:15～14:00)			

- (注) 1. 状況により土曜日にセミナーが行われることがある。  
 2. 状況によりプログラム変更もあり得る。  
 3. 研修員の来日は8月25日(火)、離日は9月11日(金)の予定  
 4. 8月26日(水)は、JICA及び警察庁のブリーフィング・オリエンテーションの予定。

研修関係機関及び関係者リスト

技術協力担当官

警察庁警務局 人事課 企画係

久保木 法 男

運営担当

警察庁 保安部長

漆 間 英 治

〃 保安部 保安課長

上 野 治 男

〃 〃 保安課薬物対策室長

島 田 尚 武

〃 理事官

柳 澤 昊

〃 課長補左

河 野 良 矩

〃 薬物対策室

今 井 啓 行

〃 〃

大 成 隆 人

〃 〃

三 浦 保

〃 〃

若 松 紀 男

〃 〃

西 村 進

〃 〃

越 智 浩

〃 〃

堤 康次郎

警察庁 国際捜査研修所長

保 良 光 彦

〃 国際捜査研修所第一研修室長

篠 宮 隆

〃 〃 第一研修室

後 藤 佳 樹



参加国 年 度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	参加実績 1回 1人
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	
エジプト													○													1
ヨルダン													○													1
スリランカ														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13
トルコ												◎	○	◎	○	○										6
カナダ													△													8
イラク													△													8
パングラデシュ													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5
ネパール															○											5
パナマ																○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4
ザンビア																○										9
アルジェリア																○										1
ジャマイカ																○	○									1
I. O. P. O.																	△									3
モルグリダ																		○								1
チリ																			○	○	○	○	○	○	○	5
フィジー																			○	○	○	○	○	○	○	7
バプアニューギニア																				○	○	○	○	○	○	2
サウジアラビア																				○	○	○	○	○	○	5
アラブ首長国連邦																				○	○	○	○	○	○	2
西ドミニオン																				○	○	○	○	○	○	2
ニューゼーランド																				△	△	△	△	△	△	5
イタリヤ																										6
モロッコ																										1
ブルネイ																										1
ベネズエラ																										1
48カ国 1国際機関																										1
参加者数	10(2)	15(5)	19(6)	14(5)	19(2)	17(2)	17(2)	17(3)	22(3)	18(3)	17(3)	23(4)	22(3)	18(2)	20(1)	21(4)	22(4)	20(2)	21(4)	24(6)	27(6)	24(5)	24(5)	25(5)	31(4)	計 508(98)

( )内はオブザーバーで内数

2. 当該国帰国研修員リスト  
(タ 1)

LIST OF EX-PARTICIPANTS OF THAILAND

No.	NAME	AGE	POST	ADDRESS	Year of participation
1	Mr. Suwit Sothidata		Deputy superintendent, Crime Suppression Sub-Division 7, Royal Thai Police	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1962
2	Mr. Wanchai Yaemklin		Chief of Division 6, Investigation and Planning Department, Chief of Investigation and Planning Division, CNB	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1962
3	ditto		ditto	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1963
4	Mr. Anek Prapysatok		Chief, Investigation Div. of Publicity, Central Narcotics Bureau, Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1963
5	Mr. Uttamakara Varavarn	42	Police Maj., Foreign Affairs Division, Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1964
6	Mr. Somkiet Chalermchuang	31	Deputy Commander, Regional Headquarter 4, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1964
7	Mr. Vichien Kasemsuwan	38	Police Maj., Inspector of 5th Section of 7th Sub-Division of Crime Suppression Division, CID	Bangkok, Thailand	1965
8	Mr. Sombunya Anand	50	Customs Chief Inspector, Air Flight Inspection Division, Department of Customs	Art Narong Road, Klong Toey, Bangkok, 10110	1965
9	Mr. Kovit Chotiros	41	Chief of Customs Suppression Branch, Preventive Division, Department of Customs	Art Narong Road, Klong Toey, Bangkok, 10110	1966
10	Mr. Suri Suchatvudhi	35	Deputy Commander, Police Aviation Division, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1966
11	Mr. Smith Boonlicit	38	Deputy Commander, Foreign Affairs Division, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1967
12	Mr. Chivosvijakorn Varavarn	42	Deputy Chief, Investigation Division, Department of Customs	Art Narong Road, Klong Toey, Bangkok, 10110	1967

No.	NAME	AGE	POST	ADDRESS	Year of participation
13	Mr. Nikom Pikul	47	Chief of Investigation Division, Department of Customs	Art Narong Road, Klong Toey, Bangkok, 10110	1968
14	Mr. Wiharn Waninrakom	38	Assistant Commissioner, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1968
15	Mr. Phairoj Sriroj	40	Deputy Commander, Police Development Division, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1969
16	Mr. Prug Tungkasrani	52	First Class Customs Inspector, Import Section, Assistant Chief of Tarrif Section	Art Narong Road, Klong Toey, Bangkok, 10110	1969
17	Mr. Satién Chinnaphong	38	Deputy Commander, Education Planning, Police Education Bureau, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1971
18	Mr. Mongkol Mokkhasmit	42	Deputy Director, Food and Drug Control Division, Ministry of Health	Deaves Palace, Samsen Road, Bangkok, 10200	1971
19	Mr. Surasak Pungrueng	39	Major, Office of Central Narcotics Bureau	Die-Daeng Road, Amphor Phayathai, Bangkok, 10400	1972
20	Mr. Anothai Bumrunpong	24	Captain 4, Office of the Inspector General, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1973
21	Mr. Chakrthip Amesbutr	32	Captain, Chief of Thonburi Metro Area, Metro Police Narcotic Suppression Unit.	Bangkok, Thailand	1974
22	Mr. Amarin Niemskul	27	Superintendent, Rayon Provincial Police. Royal Thai Police Department	Thailand	1974
23	Mr. Anan Yupanon	39	Deputy Superintendent 7, Crime Suppression Division, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1975
24	Mr. Chawana Prasopson	44	Superintendent, Metropolitan Police 18, Metropolitan Police Bureau, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1976
25	Mr. Prasat Panyarachun	54	Narcotics Suppression Center, Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1977
26	Mr. Phongsakdi Putthong	29	Narcotic Law Enforcement Officer Level 6 ONCB Training Center	Din-Daeng Road, Amphor Phayathai, Bangkok, 10400	1978
27	Mr. Buncha Bhanarangool	32	Captain 3, 7th Sub-Division, Crime Suppression Division, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1979

No.	NAME	AGE	POST	ADDRESS	Year of participation
28	Mr. Weekoon Nithmutrakul	26	Policy and Planning Analyst Level 5, Narcotic Law Enforcement Division	Din-Daeng Road, Amphor Phayathai, Bangkok, 10400	1980
29	Mr. Surapone Pjanawanit	27	Thammasart University	Bangkok,	1981
30	Mr. Sopon Pisuttiwong	26	Captain Personnel Recruitment, Supervisory Unit, crime suppression Division, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1982
31	Mr. Sahas Brikasawan		Superintendent, General Staff Division, Provincial Police Bureau, Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1983
32	Mr. Puttipong Chantrawadee	30	Narcotic Law Enforcement Officer Level 5 Northern Region Narcotic Control Center	Chaing Mai	1984
33	Mr. Amorak Huvanand	36	Deputy Superintendent, Sub-Division 7, Crime Suppression Division, The Royal Thai Police Department	Rama I Road, Pathumwan, Bangkok, 10500	1985
34	Mr. Chartchai Suthiklom	32	Narcotic Law Enforcement Officer Level 6 (Chief of Sub-Division 4) Narcotic Law Enforcement Division	Din Daeng Road, Amphor-Phayathai, Bangkok, 10400	1986
35	Mr. Sukson Junvith	42	Chief of Sub-Division 3 Narcotic Law Enforcement Division	Din Daeng Road, Amphor Phayathai, Bangkok, 10400	1987

( 香 港 )

## LIST OF EX-PARTICIPANTS OF HONG KONG

No.	NAME	AGE	POST WHEN ATTENDING TRAINING	ADDRESS (HOME OF OFFICE)	YEAR OF PARTICIPATION	PRESENT POST & TEL. NO.	CORRESPONDING ADDRESS
1	Mr. A. A. BAGGOT	33	Chief of Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1962	Retired	c/o United Nations Development Program P.O. BOX 1555 Teheran, Iran
2	Mr. Albert John BENNETT	33	Asst. Chief, Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1963	Retired	27 Queensway, Holland-on-sea, Essex, United Kingdom
3	Mr. C. L. STEVENS	37	Superintendent, Asst. Chief of Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1964	Retired	"Pinedene, Jubilee Street, Clive, NR, Shrewsbury, Shropshire United Kingdom"
4	Mr. F. G. CARROLL		Asst. Chief of Preventive Service, Commerce & Industry Department	Hong Kong	1964	Retired	D3, Paul's Mansion, 99 Waterloo Road, Kowloon
5	Mr. J. A. THORPE	27	Inspector, Research & Statistics, Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1965	Senior Asst. Commissioner of Police 5-284284 Ext. 453	The Lookout, Tai Po Kau, Tai Po Kau, Tai Po Road, New Territories
6	Mr. A. L. TOKLEY	43	Asst. Chief of Preventive Service, Commerce & Industry Department	Hong Kong	1965		Deceased
7	Mr. Alfred BAGGOT	53	Senior Police Superintendent, Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street,	1966	Retired	Not Known
8	Mr. George Ernest WELSBY	39	Asst. Chief, Hong Kong Island Division, Preventive Service, Commerce & Industry Department	Hong Kong	1966	Retired	5 Carlisle Road, Brown Bay, Auckland 10 New Zealand
9	Mr. Charles Leonard STEVENS	40	Senior Police Superintendent Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1967	Retired	"Pinedene, Jubilee Street, Clive, NR, Shrewsbury, Shropshire, U. K.



No.	NAME	AGE	POST WHEN ATTENDING TRAINING	ADDRESS (HOME OF OFFICE)	YEAR OF PARTICIPATION	PRESENT POST & TEL. NO.	CORRESPONDING ADDRESS
10	Mr. WONG Yu-Kwan	45	Chief of Special Narcotic Section, Preventive Service Division, Customs & Excise	Hong Kong	1967	Retired	37 Broadcast Drive, Flat 2F, Kowloon
11	Mr. Douglas A. NEISH	42	Branch Operational Commander, Commerce & Industry Department	Hong Kong	1968	Retired	25 Buxey Lodge, 9/F, Conduit Road, Hong Kong 5-438567
12	Mr. Murry TODD	45	Senior Police Superintendent, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1968	Retired	"Mauster 61, Kippingate Road, Sevenoak, Kent, United Kingdom
13	Mr. Charles Leonard STEVENS	42	Senior Police Superintendent Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1968	Retired	"Pinedene, Jubilee Street, Clive, NR, Shrewsbury, Shropshire, U. K.
14	Mr. CHENG Chikshin		Deputy Director, Police Superintendent, Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1971	Resigned	2nd, G2, Shatin Height 8003 Tai Po Road, New Territories
15	Mr. CHENG Chikshin		Same as above	same as above	1972	Resigned	same as above
16	Mr. CHENG Chikshin		Same as above	same as above	1973	Resigned	same as above
17	Mr. C. P. O. BIRCH	32	Police Superintendent, Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1977	Senior Superintendent of Police 5-284284 Ext. 398	Flat D1, 23 Borrett Road, Hong Kong
18	Mr. CHOW Keng-kan	33	Chief Inspector, CIP Regional Task Force Crime Wing, Hong Kong Island Regional Headquarters	No. 1, High Street, Hong Kong	1978	Chief Inspector RTP, Hong Kong Island Crime 5-598500 Ext. 28	Flat C1, 4/F., Block C, Wilshire Towers, Tin Hau Temple Road, Hong Kong
19	Mr. David Byran DONALDSON	33	Chief Inspector, CIP Research Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1979	Chief Inspector Narcotic Bureau 5-284284 Ext. 659	Flat 14, Block 44, Baguio Villas, Victoria Road, Hong Kong

No.	NAME	AGE	POST WHEN ATTENDING TRAINING	ADDRESS (HOME OF OFFICE)	YEAR OF PARTICIPATION	PRESENT POST & TEL. NO.	CORRESPONDING ADDRESS
20	Mr. Woon-wah M. LEE	32	Asst. Superintendent, Investigation, Customs & Excise Department	Harbour Building 9/F, 38 Pier Road, Central, Hong Kong	1979	Asst. Superintendent (Investigation) 5-8521413	5-668880
21	Mr. Eric Chi-bun LEUNG	34	Superintendent, Divisional Commander, Aberdeen Police Station, Royal Hong Kong Police	4, Wong Chuk Hang Road, Aberdeen, Hong Kong	1980	Currently on training in the United Kingdom	Flat 3, Block 42, Baguio Villas, Victoria Road, Hong Kong
22	Mrs. Kam-ping MOK KWONG	34	Senior Inspector, Customs & Excise Department	Hong Kong	1980	Asst. Superintendent (Prosecution) 5-8521487	5-709550
23	Mr. John HUNG Chiu-suen	39	Chief Inspector, Police Community Relations Officer	343 Java Road North Point, Hong Kong	1981	Chief Inspector PCRO/Eastern District 5-634201 Ext. 21	Flat A2, Hilltop Mansion, 60 Cloudview Road, Hong Kong
24	Mr. Charles HO Shiu cheong	34	Superintendent, Asst. District Commander,	1, Lei Yu Mun Road, Kowloon	1982	Superintendent	
25	Mr. Albert Kwok Chokuen	34	Superintendent, Staff Officer Intelligence Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1983	Superintendent, Asst. District Commander, Mongkok, Kowloon	Block 119, Flat 6, Grand Court, Kadoorie Road, Kowloon
26	Mr. FUNG Yiuming	42	Chief Inspector, District Staff Relations Officer, Eastern North Point Police Station, Royal Hong Kong Police	343 Java Road, North Point, Hong Kong	1984	Chief Inspector Narcotic Bureau, 5-775781	Flat A, 6/F., Block 2 Flora Garden, Chun Fai Road, Tai Hang, New Territories
27	Mr. Anthony Jose MA	39	Chief Inspector, Special Branch, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1985	Chief Inspector, Special Branch 5-8315379	Flat 39C, Seabird Lane, Discovery Bay, Lantau Island

No.	NAME	AGE	POST WHEN ATTENDING TRAINING	ADDRESS (HOME OF OFFICE)	YEAR OF PARTICIPATION	PRESENT POST & TEL. NO.	CORRESPONDING ADDRESS
28	Mr. Albert KWOK Cho-kuen	37	Superintendent, Staff Officer Intelligence Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police	Arsenal Street, Hong Kong	1986	Superintendent, Asst. District Commander, Mongkok 3-800331 Ext. 227	Block 119, Flat 6, Grand Court, Kadoorie Road, Kowloon.

## LIST OF EX-PARTICIPANTS OF KOREA

No.	NAME	AGE	POST	ADDRESS	Year of participation
1	Mr. Kim, Kong Whan		Retired	413-98, Yeonheedong, Sudaemum-Gu, Seoul	1963
2	Mr. Lee, Kyu Ey	62	Retired	338-53, Seogedong, Mapo-Gu, Seoul	1964
3	Mr. Lee, Jae Sup	63	Retired	1-54, Huamdong, Yongsan-Gu, Seoul	1965
4	Mr. K.m, Sang Ky	63	Retired	115-22, Yeonheedong, Sudaemum-Gu, Seoul	1965
5	Mr. Ryu, Jae Man	60	Retired	12 Sakimakri, Chuncheonmeon Goesan-gun, Chungbuk Province	1966
6	Mr. Chun, Byong Hoon	58	Retired	3-602, Chungha Apt., Etaewondong Yongsan-Gu, Seoul	1966
7	Mr. Chun, Byong Hoon	58	Same as above		1967
8	Mr. Kang Chae Tong		Died		1967
9	Mr. Chae, Hee Sung	55	Assistant Officer, Division of Emergency Planning, Min. of Health and Social Affairs	1012-305, Chugong Apt., Kwachun City Kyounggido Province	1968
10	Mr. Pak, Bo Young	64	Retired	39 dong 204, Banpodong, Shimban po Apt., Kangnam-Gu, Seoul	1968
11	Mr. Lee, Hee Choen	63	Retired	72-24, Inwhadong, Iri City, Chungbuk Province	1969
12	Mr. Hong, Jong Ku	59	Retired	637-302, Chugong Apt., Kwachun City Kyounggido Province	1969
13	Mr. Kim, Hung Kil	70	Retired	3-224, Bukheondong, Sudaemum-Gu, Seoul	1970

No.	NAME	AGE	POST	ADDRESS	Year of participation
14	Mr. Kim, Kye Woon	61	Retired	56-1, Geobangdong, Masan City, Kyong Sangnamdo Province	1970
15	Mr. Kim, Kye Sang	64	Retired	566-63, Yeonnamdong, Mapo-Gu, Seoul	1971
16	Mr. Chae, Hee Sung	55	Same as No.8		1971
17	Mr. Lee, Kyo Eung		Died		1972
18	Mr. Kim, Deuk Ho	62	Retired	73, 4th Street, Dangsandong, Yeongdeangpo-Gu, Seoul	1972
19	Mr. Sung Dal Yong	67	Retired	San 51-13, Bangbaedong, Kangnam-Gu, Seoul	1973
20	Mr. Kim Jung Yeon	55	Retired	28-26, A Sangga, AID Apt., Samsungdong, Kangnam-Gu, Seoul	1973
21	Mr. Shin, Young Youl	62	Retired	44-1, Dacheungdong, Mapo-Gu, Seoul	1974
22	Mr. Hwang, Eui Taek	56	Superintendent, Chief of Criminal Investigation, Division of Criminal Investigation, Incheon Dongbu Police Station	189-43, Wonmidong, Bucheon, Kyunggi Province	1975
23	Mr. Park, Chan Chong	46	Deputy Chief of Personal Management, Division of General Affairs High Public Prosecutor's Office of Korea	414-40, Sangmum 1 Dong, Dobong-Gu, Seoul	1975
24	Mr. Son, Nak Joo		Died		1976
25	Mr. Oh, Jum Yong	54	Chief of Public Security, Division of Public Security, Busan Police Police Bureau, K. N. P.	573-17, Daeyeon 3 Dong, Nam-Gu, Busan	1977
26	Mr. Cha, Keun Pyung	42	Chief of Security, Division of Security, Gangwha Police Police Station, Kyunggido Province	812-13, Yeoksamdong Kangnam-Gu, Seoul	1978
27	Mr. Chang, Yong Chol	50	Instructor, Korean National Police College, (At the time of Participation)		1979

No.	NAME	AGE	POST	ADDRESS	Year of participation
28	Mr. Lee, Byung Jin	38	Superintendent, Deputy Chief, Division of Antiterror, Dept of Foreign Affairs, K. N. P. Hdqs.	2072, Banghae Bondong, Kangnam-Gu, Seoul	1980
29	Mr. Kim, Jong Won	43	Deputy Chief of Interpol, K. N. P. Hdqs.	392-6, Hwagok 2 dong, Kangseo-Gu, Seoul	1981
30	Mr. Kim, Ik Jung	55	Retired	504-5, Hwagok 4 dong, Kangseo-Gu, Seoul	1982
31	Mr. Sung, Nak-Hap	38	Chief of Senior Investigators	62-1108, Hyundai Apt., Apqujung-Dong Kangnam-Gu, Seoul	1982
32	Mr. Lee, Moon Woo		Senior Supervisor, Division of Narcotics, Min. of Health and Social Affairs	301-302, Jugong, Apt., Jugong 3 deuji, Banpondong, Kangnam-Gu, Seoul	1983
33	Mr. Lee, Young Tae	36	Pharmaceutical Officer, Division of Pharmaceutical, Min. of Health and Social Affairs	401, Na Dong, Isu Apt., Bangbaedong Kangnam-Gu, Seoul	1984
34	Mr. Ma, Il Nam	46	Chief Investigator, SOFA Section, Seoul Customs House	6-303, Woosung 4th Apt., Yangjaedong Kangnam-Gu, Seoul	1985
35	Mr. Lee, Jae Hyun	28	Pharmaceutical Officer, Division of Narcotics, Min. of Health and Social Affairs	1000, Hogedong, Anyang City, Kyung-gido Province	1986
36	Mr. Sung, Nak-hap	38	Same as No. 31		1987

3. Questionnaire

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG  
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO  
160 JAPAN

---

Date: November 11, 1987

Dear Sir,

I am writing to you with the hope that you are actively engaged in your work in excellent health and in high spirits since you returned to your country after training in Japan.

It is a pleasure for me to inform you that the Japan International Cooperation Agency is doing utmost efforts to expand and improve its technical training program year after year. We have accepted a total of 62,442 participants from developing countries during the period of 1954 - March 1987. In fiscal 1987, we plan to accept about 4,600 participants and conduct 234 group training courses and seminars.

In programing future training courses, we endeavour to place emphasis not only on increasing the number of participants to meet the augmenting requests from developing countries but also on improving the quality of training programs.

For this purpose we would like to know how and to what extent the ex-participants in our training courses/seminars are making use of knowledge and technology acquired in Japan and to hear what suggestion and recommendation they have for the betterment of our courses.

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG  
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO  
160 JAPAN

---

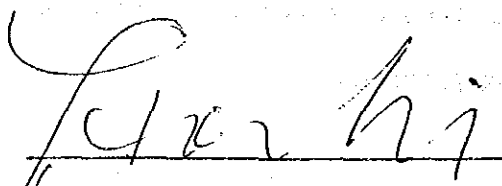
It is also important to brush-up and up-grade what you learned in Japan. Therefore, JICA dispatches technical follow-up team to participating countries every year to provide you with information on latest developments in your field of activity.

This year JICA has decided to send to your country a follow-up team in the field of your expertise. Details of its schedule and the questionnaire are enclosed herewith.

We shall be grateful if you could extend your kind cooperation to our visiting team during its stay in your country.

We are really looking forward to seeing you.

Yours sincerely,



Kazuo Okabe

Director

Training Affairs Department

Japan International Cooperation Agency



Follow-up Team for EX-participants of the Group Training Course in Control of Narcotic Offences

1. Objective: The Follow-up Team will visit ex-participants' organization and related organs for the purpose of offering guidance through consultation, evaluating the results of training in Japan and assessing problems and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training programme.
2. Period: From January 25, 1988 to February 13, 1988.  
For details, please refer to the tentative schedule attached herewith.
3. Members:
  - a. Mr. Yasuo Sasaki  
Police Superintendent  
National Police Agency
  - b. Mr. Takato Onari  
Police Assistant Inspector  
National Police Agency
  - c. Mr. Masahiko Nozue  
Training Officer, First Training Division,  
Training Affairs Department,  
Japan International Cooperation Agency

Cooperation Requested to You

1. We would like to request you to prepare a short report according to the Questionnaire and send it to the following address by January 23, 1988.

(Thailand) Thailand Office, JICA  
1674/1, New Petchburi Road, Bangkok 10310,  
Thailand

(Hong Kong) Consulate-General of Japan,  
25th floor, Bank of America Tower,  
12, Harcourt Road, Central,  
Hong Kong

(Korea) Embassy of Japan,  
18-11 Chunghak-Dong,  
Chongro-ku, Seoul,  
Republic of Korea

2. We would like to visit some organizations in your country according to the schedule.  
The appointment with the persons to meet and about the date and the place of the meeting will be arranged by Embassy of Japan, Consulate-General of Japan or JICA Office in your country.  
The further information about our visit will be informed to you directly or through your superior.

TENTATIVE SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS OF CONTROL OF NARCOTIC OFFENCES SEMINAR

1. January 25 (Mon) Arrival in Bangkok (17:10) by TG641
2. 26 (Tue) Meeting with JICA Office and Embassy of Japan  
Courtesy call and discussion with D.T.E.C.
3. 27 (Wed) Visit to Royal Thai Police Department, Office of Narcotics Control Board  
Lecture, Meeting with Ex-participants
4. 28 (Thu) Move from Bangkok (11:50) to Chiang Mai (12:50) by TH 104  
Visit to O.N.C.B. Chiang Mai Office
5. 29 (Fri) Observation of Chiang Mai Area ( Crops Substitute Program )
6. 30 (Sat) Move from Chiang Mai (9:15) to Bangkok (10:15) by TH 101
7. 31 (Sun) Free
8. February 1 (Mon) Report to JICA Office and Embassy of Japan  
Move from Bangkok (14:30) to Hong Kong (18:05) by CI804
9. 2 (Tue) Meeting with Consulate-General of Japan  
Courtesy call and discussion with Civil Service Training Centre  
Visit to Narcotic Bureau, Royal Hong Kong Police  
Lecture, Meeting with Ex-participants
10. 3 (Wed) Visit to Police Academy and Forensic Laboratory ( Drug Analysis )
11. 4 (Thu) Observation of the control at Entry Point, Hong Kong Bay
12. 5 (Fri) Report to Consulate-General of Japan
13. 6 (Sat) Free
14. 7 (Sun) Move from Hong Kong (13:00) to Seoul (17:00) by KE618
15. 8 (Mon) Meeting with Embassy of Japan  
Courtesy call and discussion with Ministry of Science & Technology
16. 9 (Tue) Visit to Police Head Quarters, Ministry of Health and Social Affairs  
Lecture, Meeting with Ex-participants
17. 10 (Wed) Move from Seoul to Busan  
Visit to Consulate-General of Japan
18. 11 (Thu) Visit to Criminal Investigation Division, Busan Police Bureau  
Move from Busan to Seoul
19. 12 (Fri) Report to Embassy of Japan
20. 13 (Sat) Arrival in Tokyo (15:50) BY JL952

QUESTIONNAIRE FOR EX-PARTICIPANTS  
IN  
SEMINAR ON CONTROL OF NARCOTIC OFFENCES

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Please give answers to the following questions in block letters or in typewriting.

## I GENERAL QUESTIONS

1 Name (please underline surname)

2 Country

3 Date of Birth

4 Home Address and phone number

5 The Year of Your Participation

19 \_\_\_

6 Office and Position

(1) At the time you attended the course

Organization:

Position :

(2) Present

Organization:

Position :

(3) Address of your present organization and your phone number

## II QUESTIONS ON THE COURSE YOU ATTENDED

1 Please say frankly whether the course you attended was beneficial to your work or not. (Please mark)

Very beneficial.

- Beneficial
- Not so useful
- Useless

2 How are you making use of the knowledge and experience you acquired in Japan ? (Please mark)

I am utilizing the above experience for:

- Executing of daily law enforcement duties.
- Conduct of international investigation and cooperation.
- Lecture in school or training center.
- Training courses and seminars.
- Making reports and writing articles in law enforcement books

3 About the conduct of the course in the future.

(1) How do you think of the seminar management should be the future?  
(Please mark)

The course should be:

- Practical training at a level of operational officers
- Exchange of opinions and making of possible agreement at a level of senior officers
- Periodical change of above two ways

(2) Do you have any proposal or ideas for the further improvement of the course ?

a) Duration

b) Participant to be invited

c) Subjects to be covered

d) Others

III QUESTION ON TECHNICAL COOPERATION OF JAPAN CONCERNING TO THE DRUG CONTROL.

How do you think of technical cooperation of Japan should be ?  
(Please mark)

Technical cooperation of Japan should :

- Include supply of equipment and devices for drug investigation.
- Include sending of officers with a special knowledge beneficial to conduct of drug control.
- Include both above two ways.

IV QUESTIONS ON COMMUNICATION AMONG EX-PARTICIPANTS

1 Do you know the names of other participants who attended the course from your country ? (Please mark)

- Yes. I know most of them.
- Yes. I know but not so many.
- No.

2 Are you exchanging information with ex-participants in and out of your country ? (Please mark)

- Yes. I am doing so in and out of my country.
- Yes. I am doing so in my country.
- No.

3 Are you making a circle of the ex-participants in your country?  
(Please mark)

- Yes. We have a circle of the ex-participants.
- I am planning to make a circle.
- Not yet.

4. 当該国訪問機関に提出した英文報告書

(1) タ イ

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS  
OF THE SEMINAR ON CONTROL OF NARCOTIC OFFENCES

1. INTRODUCTION

It is our great pleasure to have the opportunity to visit Thailand as Follow-up Team for ex-participants of the Seminar on Control of Narcotic Offences.

As its well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has been conducting a number of training programs in various kinds of fields, and JICA has been sending Follow-up Team to the participated countries in order to improve these programs.

The Seminar on Control of Narcotic Offences has been conducted under the auspices of National Police Agency since 1972, accepting over 500 participants from over 50 countries. The Seminar has now become one of the oldest courses in JICA, and its role played in field of the training for drug law enforcement officers is highly appreciated even among the international drug control organizations such as United Nations.

In the conduct of the Seminar, we have learned sincere cooperation of each participating country and its organization and positive attitudes of the participants. We think these are the reason why the Seminar is able to attain its purpose and remain long.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities of 7 days.

2. OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP TEAM

The Follow-up Team's aims are to visit ex-participants' organizations and other organizations concerned in order to offer guidance through consultation and evaluation on the result of training in Japan and assessing programs and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training programs.

3. TEAM MEMBER

- a. Mr. Yasuo SASAKI  
Police Superintendent,  
Safety Division,  
Safety Department, National Police Agency
- b. Mr. Takato ONARI  
Police Assistant Inspector,  
Drug Control Office, Safety Division,  
Safety Department, National Police Agency
- c. Mr. Masahiko NOZUE  
Training Officer, First Training Division,  
Japan International Cooperation Agency (JICA)

#### 4. TEAM'S ACTIVITIES

During the stay, we were able to see many ex-participants and number of people concerned. (the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report)

#### 5. OUR FINDINGS AND OPINIONS

As a result of the questionnaires and meetings with the ex-participants and authorities concerned, our team wish to give the following impression and comments.

1) The Seminar on Control of Narcotic Offences is highly appreciated by the people concerned.

2) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties, and have done some projects successfully by using extensional method which they learned in the Seminar on Control of Narcotic Offences.

3) We appreciate the efforts having made by organizations concerned for selection of Seminar participants. It is well organized and working efficiently.

4) We have got many ideas, suggestions and recommendations from Thai ex-participants which will bring to improve the Seminar in the future.

#### 6. CONCLUSION REMARKS

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments and suggestions.

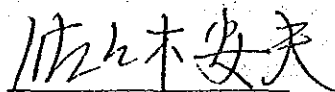
We are very happy to have known this course has been appraised by the people in this country.

We hope that these comments will be given due consideration by both Thailand and Japanese authorities so that steps to the better course.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation with us during the period of our stay in Thailand.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Department of Technical and Economic Cooperation, Royal Thai Police Department, Office of the Narcotics Control Board, the Embassy of Japan and JICA Thailand Office.

Thailand  
February 1, 1988



Mr. Yasuo SASAKI

Team Leader

Follow-up Team for Ex-participants  
of the Seminar on Control of Narcotic Offences



MEETING LIST OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS  
OF CONTROL OF NARCOTIC OFFENCES SEMINAR  
(AUTHORITIES IN DUE ORDER)

January 26, 1988 (Tue)

1. Mr. B. SAITO Director  
Japan International Cooperation Agency  
Thailand Office
2. Miss C. HARA Assistant Resident Representative  
Japan International Cooperation Agency  
Thailand Office
3. Mr. H. KAWANOBE Second Secretary  
Embassy of Japan
4. Mr. M. KIKUKAWA Second Secretary  
Embassy of Japan
5. Mr. Krisada Piampongsant Chief  
Japan Sub-Division  
Department of Technical  
and Economic Cooperation
6. Mr. Vasan Kanjun Technical Service Division  
Department of Technical  
and Economic Cooperation

January 27, 1988 (Wed)

1. Pol.Gen.Pow Sarasin Director-General  
Royal Thai Police Department
2. Pol.Lt.Gen.Savang Theerasawad Deputy Director-General  
Royal Thai Police Department
3. Pol.Maj.Gen.Kraisuk Sansuk Assistant Commissioner  
Provincial Police Bureau 1  
Royal Thai Police Department
4. Pol.Maj.Gen.Sompol Suthimai Commander  
Head of N.C.B.  
Foreign Affairs Division  
Royal Thai Police Department
5. Pol.Maj.Gen. Chavalit Yodmani Secretary-General  
Office of the Narcotics Control Board
6. Pol.Maj.Gen. Koson Limpichart Deputy Secretary-General  
Office of the Narcotics Control Board

7. Miss Siree Boonnak

Chief  
Foreign Affairs Division  
Office of the Narcotics Control Board

8. Mrs. Anchalee Sirisabphya

Foreign Affairs Division  
Office of the Narcotics Control Board

9. Mrs. Rassamee Vitavet

Assistant Chief  
Narcotic Law Enforcement Division  
Office of the Narcotics Control Board

January 28, 1988 (Thur)

1. Mr. Phuttipong Chantrawadee

Senior Narcotics Officer  
Northern Narcotics Control Center  
Office of the Narcotics Control Board

January 29, 1988 (Fri)

1. Dr. Richard Dickmann

Senior Advisor  
Thai-Norwegian Church Aid  
Highland Development Project

2. Mr. Muninthorn

Director of TN-HDP Project  
Ministry of Health and Welfare

3. Mr. Kamol Thaiyapirovi

ONCB - Coordinator  
TN-HDP

LIST OF EX-PARTICIPANTS WE MET

NAME AND YEAR OF PARTICIPATION	PRESENT POSITION
1. Pol.Col.Somkiet Chalermchuang (1964)	Deputy Commander Regional Headquarter 4 Nakornrachasrma Provincial Police Department Tel. 244-102, 243-359
2. Mr. Smith Boonlikit (1967)	Deputy Commander Foreign Affairs Division Royal Thai Police Department
3. Mr. Phairoj Siriroj (1969)	Deputy Commander Institute of Police Development Royal Thai Police Department
4. Pol.Col. Amarin Nienskul (1974)	Superintendent Rayong Provincial Police (038) 611-310
5. Mr. Phongsak Putthong (1978)	Narcotics Law Enforcement Officer Level 6 Tel 245-9883
6. Mr. Yothin Meechantra (1979)	Chief of Special Operation Section Narcotics Law Enforcement Division Office of the Narcotics Control Board Tel. 245-5285
7. Mr. Weekoon Nithimutrakul (1980)	Policy and Planning Analyst Level 5 Office of the Narcotics Control Board Tel. 245-5280
8. Mr. Phuttipong Chantrawadee (1984)	Senior Narcotics Officer Northern Narcotics Control Center Office of the Narcotics Control Board
9. Pol. Lt. Col. Amarak Huvanandana (1985)	Deputy Superintendent 7th Sub-Division Crime Suppression Division Royal Thai Police Department Tel. 223-8200
10. Mr. Chartchai Suthiklom (1986)	Chief, Investigation Sub-Division 4 Narcotics Law Enforcement Division Office of the Narcotics Control Board Tel. 234-7648
11. Lt. Sukson Junvith (1987)	Chief of Investigation Sub-Division 3 Office of the Narcotics Control Board Tel. 245-9081

(2) 香 港

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS  
OF THE SEMINAR ON CONTROL OF NARCOTIC OFFENCES

1 INTRODUCTION

It is our great pleasure to have the opportunity to visit Hong Kong as Follow-up Team for ex-participants of the Seminar on Control of Narcotic Offences.

As its well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has been conducting a number of training programs in various kinds of fields, and JICA has been sending Follow-up Team to the participated countries in order to improve these programs.

The Seminar on Control of Narcotic Offences has been conducted under the auspice of National Police Agency since 1972, accepting over 500 participants from over 50 countries. The Seminar has now become one of the oldest course in JICA, and its role played in field of the training for drug law enforcement officers is highly appreciated even among the international drug control organizations such as United Nations.

In the conduct of the Seminar, we have learned sincere cooperation of each participating country and its organizations and positive attitudes of the participants. We think these are the reason why the Seminar is able to attain its purpose and remain long.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities of 5 days.

2 OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP

The Follow-up Team's aims are to visit ex-participants' organizations and other organizations concerned in order to offer guidance through consultation and evaluation on the result of training in Japan and assessing programs and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training programs.

3 TEAM MEMBER

- a. Mr. Yasuo SASAKI  
Police Superintendent,  
Safety Division,  
Safety Department, National Police Agency
- b. Mr. Takato ONARI  
Police Assistant Inspector,  
Drug Control Office, Safety Division,

Safety Department, National Police Agency  
c. Mr. Masahiko NOZUE  
Training Officer, First Training Division,  
Japan International Cooperation Agency (JICA)

#### 4 TEAM'S ACTIVITIES

During the stay, we were able to see many ex-participants and number of people concerned. (the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report)

#### 5 OUR FINDINGS AND OPINIONS

As a result of the questionnaires and meetings with the ex-participants and authorities concerned, our team wish to give the following impression and comments.

1) The Seminar on Control of Narcotic Offences is highly appreciated by the people concerned.

2) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties, and have done some projects successfully by using extensional method which they learned in the Seminar on Control of Narcotic Offences.

3) We appreciate the efforts having made by organizations concerned for selection of Seminar participants. It is well organized and working efficiently.

#### 5 CONCLUSION REMARKS

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments suggestions.

We are very happy to have known this course has been appraised by the people in this country.

We hope that these comments will be given due consideration by both Hong kong and Japanese authorities so that steps to the better course.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation with us during the period of our stay in Hong kong.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Civil Service Training Center, Customs Department, Narcotics Bureau of Royal Hong Kong Police, and the Consulate-General of Japan.

Hong kong

February 5, 1988

佐々木 勇夫

Mr. Yasuo SASAKI

Team Leader,

Follow-up Team for Ex-participants

of the Seminar on Control of Narcotic Offences



February 5, 1988. (Fri)

1. Mr. Masaki Saito

Deputy Consul-General,  
Consulate-General of Japan



List of Participants for the Seminar on  
Control of Narcotic Offences

Wednesday, 3 February 1988

Royal Hong Kong Police Force :

- \* 1. Mr. HO Shiu-cheong, Superintendent (Staff Officer,  
Narcotics Bureau)
- \* 2. Mr. Albert KWOK Cho-kuen, Superintendent (Assistant District  
Commander, Crime,  
Mongkok)
- \* 3. Mr. D B DONALDSON, Chief Inspector of Police (Narcotics Bureau)
- \* 4. Mr. FUNG Yiu-ming, Chief Inspector of Police (Narcotics Bureau)

Customs & Excise Department :

- 1. Mrs KWOK YEUNG Mei-ki, Assistant Superintendent
- \* 2. Mr LEE Woon-wah, Assistant Superintendent
- \* 3. Mrs Catherine KWOK MOK Kam-ping, Senior Inspector
- 4. Mr CHOW Or-tung, Senior Inspector
- 5. Mrs Anna POON SHIU Yuk-han, Senior Inspector
- 6. Mr. LO Wing-yiu, Senior Inspector
- 7. Mr CHAN Hon-kit, Senior Inspector

\* Ex-participants of JICA course

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS  
OF THE SEMINAR ON CONTROL OF NARCOTIC OFFENCES

1 INTRODUCTION

It is our great pleasure to have the opportunity to visit Republic of Korea as Follow-up Team for ex-participants of the Seminar on Control of Narcotic Offences.

As its well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has been conducting a number of training programs in various kinds of fields, and JICA has been sending Follow-up Team to the participated countries in order to improve these programs.

The Seminar on Control of Narcotic Offences has been conducted under the auspices of National Police Agency since 1972, accepting over 500 participants from over 50 countries. The Seminar has now become one of the oldest course in JICA, and its role played in field of the training for drug law enforcement officers is highly appreciated even among the international drug control organizations such as United Nations.

In the conduct of the Seminar, we have learned sincere cooperation of each participating country and positive attitudes of the participants. We think these are the reason why the Seminar is able to attain its purpose and remain long.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities of 6 days.

2 OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP

The Follow-up Team's aims are to visit ex-participants' organizations and other organizations concerned in order to offer guidance through consultation and evaluation on the result of training in Japan and assessing programs and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training programs.

3 TEAM MEMBER

- a. Mr. Yasuo SASAKI  
Police Superintendent,  
Safety Division,  
Safety Department, National Police Agency
- b. Mr. Takato ONARI  
Police Assistant Inspector,  
Drug Control Office, Safety Division,

Safety Department, National Police Agency  
c. Mr. Masahiko NOZUE  
Training Officer, First Training Division,  
Japan International Cooperation Agency (JICA)

#### 4 TEAM'S ACTIVITIES

During the stay, we were able to see many ex-participants and number of people concerned. (the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report)

#### 5 OUR FINDINGS AND OPINIONS

As a result of the questionnaires and meetings with the ex-participants and authorities concerned, our team wish to give the following impression and comments.

1) The Seminar on Control of Narcotic Offences is highly appreciated by the people concerned.

2) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties, and have done some projects successfully by using extensional method which they learned in the Seminar on Control of Narcotic Offences.

3) We appreciate the efforts having made by organizations concerned for selection of Seminar participants. It is well organized and working efficiently.

#### 5 CONCLUSION REMARKS

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments suggestions.

We are very happy to have known this course has been appraised by the people in this country.

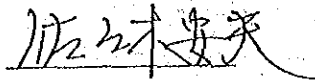
We hope that these comments will be given due consideration by both Republic of Korea and Japanese authorities so that steps to the better course.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation with us during the period of our stay in Republic of Korea.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Ministry of Science and Technology, Ministry of Health and Social Affairs, Police Headquarters, the Consulate-General of Japan in Busan and the Embassy of Japan.

Republic of Korea

February 12, 1988



Mr. Yasuo SASAKI

Team Leader,

Follow-up Team for Ex-participants,

of the Seminar on Control of Narcotic Offences.

The name of the people and the date  
the Follow-up Team met

(Authorities in due order)

February 8, 1988 (Mon)

1. Mr. K. Urabe  
Counsellor,  
Chief, Economic Affairs  
Embassy of Japan
2. Mr. T. Kato  
Counsellor,  
Embassy of Japan
3. Mr. T. Suto  
Construction Attache  
Embassy of Japan
4. Mr. Chang Dong-Hwa  
Embassy of Japan
5. Mr. Chang Sung-Tae  
Director-General  
for technical Cooperation  
Ministry of Science & Technology
6. Mr. Ho Nam  
Director,  
Bilateral Research Cooperation Division  
Ministry of Science & Technology
7. Mr. Yoon Hean-Joo  
Assistant Director,  
Bilateral Research Cooperation Division  
Ministry of Science & Technology

February 9, 1988 (Tue)

1. Mr. Kim Ki-Soo  
Director,  
Foreign Affairs Bureau  
National Police Headquarters
2. Mr. Chung Ki-Bok  
National Police Headquarters
3. Mr. Jung Yong-Jin  
Director,  
Narcotics Division  
Bureau of Pharmaceutical Affairs  
Ministry of Health and Social Affairs

February 10 (Wed)

1. Mr. J. Numata                      Consulate-General of Japan,  
Pusan, Korea
2. Mr. A. Saito                        Consul  
Consulate-General of Japan,  
Pusan, Korea
3. Mr. K. Tani                         Consul  
Consulate-General of Japan,  
Pusan, Korea

February 11 (Thu)

1. Mr. Park Hee-Myung                Director,  
Investigation Division  
Pusan Police Bureau
2. Mr. Jun Ho-Chul                    Director,  
Foreign Affairs Division  
Pusan Police Bureau
3. Mr. Choi Jong-Young                Captain  
Investigation Division  
Pusan Police Bureau

List of Ex-Participants we met

Name and Year of Participation	Present Position
1. Mr. Park Chan-Chong (1975)	Deputy Chief of Personal Management, Division of General Affairs High Public Prosecutor's Office of Korea
2. Mr. Lee Byung-Jin (1980)	Deputy Chief, Division of Antiterror Dept of Foreign Affairs National Police Headquarters
3. Mr. Kim Jong-Won (1981)	Deputy Chief of Interpol National Police Headquarters
4. Mr. Sung Nak-Hap (1982, 1987)	Chief of Senior Investigators, National Police Headquarters
5. Mr. Lee Moon-Woo (1983)	Senior Supervisor, Division of Narcotics Ministry of Health and Social Affairs
6. Mr. Lee Young-Tae (1984)	Pharmaceutical Officer, Division of Pharmaceutical Ministry of Health and Social Affairs
7. Mr. Ma Il-Nam (1985)	Chief Investigator, SOFA Section Seoul Customs House
8. Mr. Lee Jae Hyun (1986)	Pharmaceutical Officer, Division of Narcotics Ministry of Health and Social Affairs
9. Mr. Oh Jum-Yong (1977)	Chief of Public Security, Division of Public Security Pusan Police Bureau, K.N.P.

## 5. 現地セミナー配布資料

### Drug Offences in Japan, 1987 (January-November)

#### 1. OVERVIEW

Drug abuse such as heroin, cocaine, cannabis and stimulants is a serious problem which every nation in the world is facing at present.

As for Japan, you may know that stimulant drug, methamphetamine, is major drug of abuse.

Over 20,000 persons have been arrested for stimulant offences each year in Japan, since 1981. The seizure of methamphetamine is sharply increasing resulting in record seizures. We are aware the second wave of stimulant abuse is surging in Japan.

Abuse of methamphetamine has become a major social problem because of its spread among the general public such as youth and women. Also because of its effects which can cause murder or arson by addicts.

In addition to methamphetamine, Japan is now facing other drug problems. There are signs of the expansion of cannabis abuse; an increasing in the arrest of heroin smuggler heading to United States; the threat of 'Crack' and the abuse of organic solvents.

Under such circumstances, in order to cut off the supply of such drugs as well as to eradicate the demand, the police have enforced their control by placing emphasis of the following points:

(1) holding international and regional meetings such as Seminar on Control of Narcotic Offences; dispatching investigative officers to the countries concerned, and extending cooperation with foreign law enforcement authorities

(2) pursuit of smuggling cases at maritime ports of entry

(3) destruction of trafficking organizations mainly consisting of Japanese organized crime, "Yakuza"

(4) all-out crackdown on offences by abusers

Next I would like to explain characteristic trends of drug abuse in Japan.

#### 2. Characteristic trends of drug abuse in Japan, 1987 (January-November)

The following can be listed as major characteristic trends in drug offences during 1987.

(1) The amount of methamphetamine seized continued to exceed the records for the previous four years.

The amount of methamphetamine seized during 1987 was 618 kg, which exceeded the figure of 1986 (349.7 kg), the highest record in history so far. In this connection, since one dosage unit is about 0.02 g, the amount of methamphetamine seized during 1987 could be used by 30,900,000 people, a figure which represents 35.3 % of the total adult population (87,530,000 as of July 1987)

(2) Smuggling cases emanating from Taiwan have further increased.

During 1987, methamphetamine smuggled from Taiwan was 463.4 kg representing 78.2 % of the total amount of seizure (cases in which over 1 kg of stimulant seized). On the other hand,



methamphetamine smuggled from Korea was 62.8 kg representing 10.6 % of the total. This figure has decreased by 42.0 kg compared with 1986.

(3) The amount of cocaine seized was also a record mark.

The amount of cocaine seized was 1.6 kg, accounting 5 times more compared with 1986 (320 g) recording the largest in history. The number of cases and persons arrested was 58 and 34 respectively, showing increase of 31 cases (114.8 %) and 12 persons (54.5 %). As for crack cocaine, though it is not been discovered in Japan, we are intensifying watch to evade crack landing Japan.

(4) Cannabis offences are expected to show sharp increases hitting historical records.

The number of cases and persons arrested during 1987 was 1,523 and 1,213 respectively increasing by 162 cases (11.9 %), 128 persons (11.8 %) expected to surpass number of persons arrested (1,230) in 1984 that was the previous record.

(5) Number of women arrested for methamphetamine offences has increased.

Although the total number of persons arrested for methamphetamine offences have decreased, the number of women arrested showed an increase of 1.4 % (46 persons). Moreover, women abusers of organic solvents have increased to 10.9 % (525 persons), though total number of abusers decreased from 24,044 persons in 1986 to 23,431 in 1987 indicating wide spread of drug abuse among women.

### 3. Status of methamphetamine offences

(1) The number of persons arrested for methamphetamine offences was 19,667 in 1987 and expected to exceed 20,000 by the end of the year.

The number of cases and persons arrested was 19,263 and 19,667 respectively in 1987 and no doubt will exceed 20,000 in number of persons arrested. The figure is shifting constantly at high level. (see Figure 1)

(2) The amount of methamphetamine seized was 618 kg in 1987 and continued to exceed the records for the last four years. Main country of supply is Taiwan.

During 1987, 618 kg of methamphetamine was seized, which exceeded the figure of 1986 (349.7 kg), the previous highest figure, by 268.3 kg (78.7 %). Japan continues to surpass the records achieved in each of the past four years. The amount of seizure, 618 kg, can be used by 30,900,000 persons, 35.6 % of total adult population in Japan.

During 1987, 24 cases were detected in which over 1 kg of methamphetamine was seized in a single incident (we call the case a significant seizure case) and the total amount of significant seizures rose to 592.4 kg, accounting for 95.5 % of the total for the year (618 kg).

As for source of supply countries, Taiwan held the first place accounting for 78.2 % (463. kg). Taiwan is responsible for 12 cases of the total significant seizure cases showing remarkable increase. Second was Korea, 10.6 % (62.8 kg) a decrease of 42 kg (40.1 %) compared with 1986. (see table

1)

(Examples of smuggling cases)

a. After conducting long surveillance, the police arrested members of an organized crime group and seized 253 kg of methamphetamine smuggled from Taiwan.

(February, Fukuoka Prefecture)

b. The police arrested several Taiwanese and seized 140 kg of methamphetamine disguised as frozen vegetables in container shipped from Taiwan.

(May, Tokyo Metropolitan Police)

(3) Percentage of arrest of organized group members showed decrease.

During 1987, 8,928 organized crime group members were arrested in 13,855 methamphetamine cases and 335.3 kg of methamphetamine was seized. The figure represents 45.4 % of the total number of persons arrested, which is a decrease of 5.7 % compared with 1986, (51.1 %). However, the number of organized crime members arrested for stimulant offences represents 23.6 % of the total number of organized crime members arrested, 37,762 persons. From this figure, we can see how deeply they are involved in stimulant trafficking to get their finances. (see table 2)

(4) Ratio of repeat offender was further increased.

The ratio of repeat offender has been on the upward trend year after year. In 1987, the number of repeat offender was 10,886 and accounted for 55.2 % of total number of persons arrested. The ratio, 55.2 % was an increase of 1.3 % compared with 1986 (53.9 %). (see table 3)

(5) Offences caused by addicts for the purpose of obtaining methamphetamine increased.

The abuse of methamphetamine causes strong mental dependency and as a result, the abuser becomes an addict and can be afflicted by hallucination and delusion which can cause serious offences such as murder, robbery and arson. In addition to that, it is not rare that the abuser commits larceny or fraud to get money for drugs. In 1987, larceny crime by addicts showed increase, from 44 cases in 1986 to 60 cases in 1987.

(Examples of offences committed by addicts)

a. A methamphetamine addict, who had been once arrested for stimulant offence, visited a neighbouring house saying he was looking for handkerchief. When the housewife answered him, he suddenly took out long knife and stabbed her in the neck and back, killing her.

b. An unemployed, who was a methamphetamine addict, under the influence and stabbed his mother to death. He had previously been arrested for attempting to kill his mother.

#### 4. Status of narcotic offences

(1) General situation

Table 4 shows number of cases and persons arrested for narcotic offences (violation of the Narcotic Control Law, the Opium Law and the Cannabis Control Law) in 1987, with a total of 2,020 cases and 1,628 persons arrested. This shows an increase of 131 cases (6.9 %) and 105 persons (6.9 %) compared, with previous year. Both violation of Narcotic Control Law and Cannabis Control Law showed large increases in 1987.

(2) Significant increase of cannabis offences

During 1987, 1,213 persons were arrested for cannabis offences in 1,523 cases and 132.3 kg of cannabis was seized. Though the amount of seizure decreased, the number of persons arrested will be the highest in history (the highest so far is 1,230 persons in 1984).

As for the status of organized crime group members involved in cannabis crime, 192 persons were arrested in 307 cases representing a decrease both in the number of cases and that of persons by 14 (4.4 %), 30 (13.5 %) respectively.

16.0 % of the total of those arrested were organized crime group members and showed a decrease from 20.5 % in 1986. But we can say that organized crime is deepening their involvement in cannabis trafficking because we see a major increase in the size of seizures from suspects who have connection with organized crime groups.

As for source of supply country, when we see cases in which over 1 kg of cannabis was seized in a single incident, 29 cases took place last year in which a total of 99.7 kg of cannabis was confiscated. The Phillipines took first place totaling 16 cases and 63.8 kg seized. The most frequent was of smuggling was, carrying by Japanese tourist or foreign trafficker and concealment in air cargo.

(3) Cocaine seizure hit the highest record

The amount of cocaine seized was 1.6 kg representing 5 times more compared with 1986 (320 g). The number of persons arrested was 34 in 58 cases representing increase of 12 persons (54.5 %) and 31 cases (114.8 %) compared with 1986.

(4) Amount of heroin seized also increased

The amount of heroin seized last year was 4.7 kg and 37 persons were arrested in 56 heroin cases. Though both number of persons arrested and cases decreased, the amount of seizure was 3.5 times more compared with 1986.

(Major heroin smuggling cases)

a. By receiving ICPO alert on heroin smuggling from India to Japan, the police arrested 5 Nigerian who concealed 1.2 kg of heroin in body cavity. The heroin was almost sent to United States by parcel.

(July, Tokyo Metropolitan Police)

b. 2.4 kg of heroin concealed in parcels was found in Osaka. Tose had originally been sent to England but were sent back to Japan because of a wrong address. The addresses of the sender in Japan were also false. The police think that the parcels were posted in countries other than Japan and asked ICPO for investigative cooperation.

(June, Osaka Pref.)

## Modus operandi of drug smuggling to Japan

### 1. Use of isolated small islands;

In the case of Fukuoka Pref. in which 253 kg of methamphetamine was seized, the suspects were based on small islands far from main land and were making contact with resident Taiwan smuggling group. They used a speed-boat for trafficking that took place on the sea between Taiwan and Japan. The drug was hidden in a small cottage located on one of the small islands.

### 2. Use of container ship;

Tokyo Metropolitan Police arrested 6 Taiwanese who smuggled 140 kg of methamphetamine who had used a container ship for smuggling in May. They concealed the drug in the disguise of frozen vegetables.

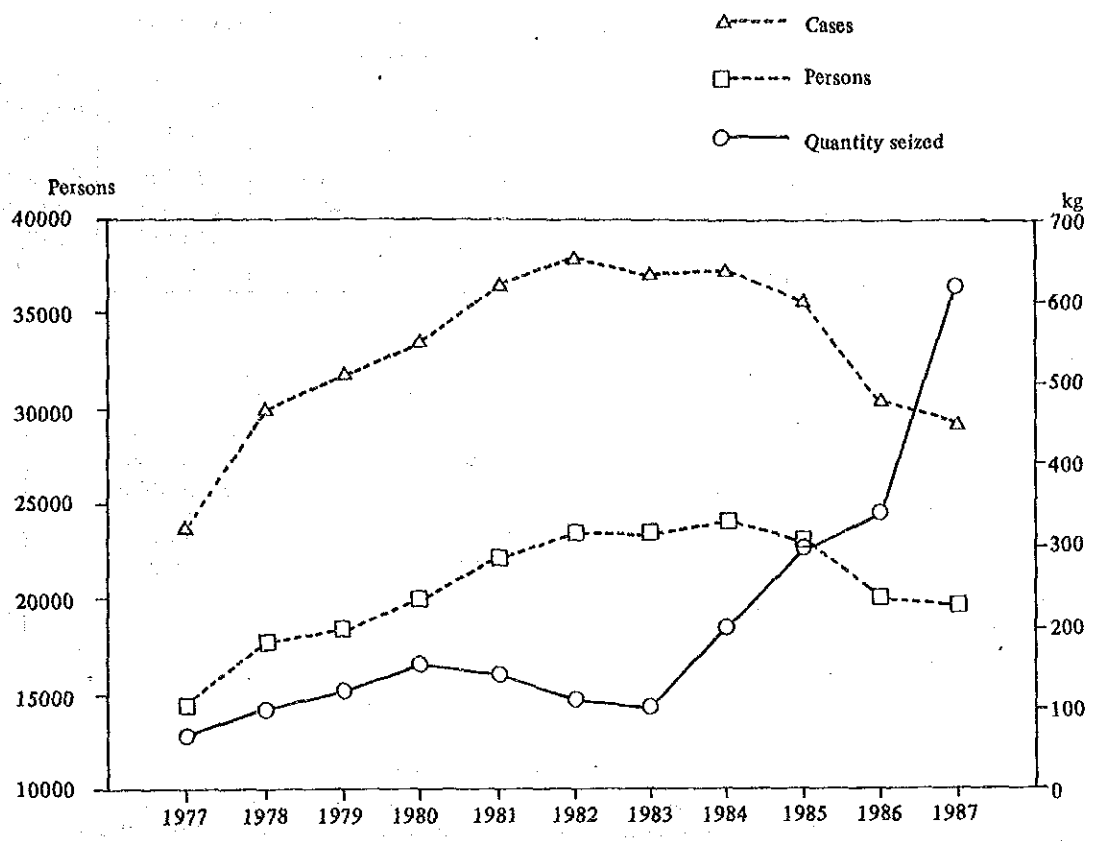
### 3. Use of body cavity;

Tokyo Metropolitan Police arrested 5 Nigerians in possession of 1.2 kg of heroin. Four of those arrested hid the drug in their anus, by using 3 condoms, each of which contained 100 g of heroin. Their reward was \$500 if they succeeded.

### 4. Use of tin can

(1) In September, Fukuoka Prefectural Police arrested an organized crime member who arrived Fukuoka airport from Taiwan via Hong Kong in possession of a stimulant. He hid 2.35 kg of methamphetamine in four almond powder cans. Tokyo Metropolitan Police also found 4 kg of methamphetamine concealed in the same kind of tin can in February. The cans were carried by 2 Taiwanese who came to Japan for tourism.

(2) 11 of Cocoa cans and 2 of mango cans which contained about 400 g of cannabis were found at Narita Airport in August. The total amount seized was about 5 kg and this case is still under investigation.



Year	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987
Cases	23,765	29,860	31,637	33,354	36,397	37,739	37,033	37,267	35,587	32,165	29,263
Persons	14,447	17,740	18,297	19,921	22,024	23,365	23,301	24,022	22,980	21,052	19,667
Seizureg	65,017	99,641	119,288	152,299	140,611	106,907	99,023	197,571	294,104	349,669	618,013

Figure-1 Trend of stimulant (Methamphetamine) offence

Table 1 Source of supply

	Total		Supply country				
			Taiwan	Korea	Hong Kong	U.S.A.	Unknown
1987	Cases	24	12	3	0	0.0	9
	Seizure (Kg)	592.4	463.4	62.8	0.0	0.0	66.3
	%	100	78.2	10.6	0.0	0.0	11.2
1986	Cases	38	12	12	0	0	14
	Seizure (Kg)	311.7	176.4	104.7	0.0	0.0	30.6
	%	100	56.6	33.6	0.0	0.0	9.8
Balance	Cases	-14	0	-9	0	0	-5
	%	-36.8	0.0	-75.0	0.0	0.0	-35.7
	Seizure (Kg)	280.7	287.0	-42.0	0.0	0.0	35.7
	%	90.0	162.7	-40.1	0.0	0.0	116.7

Table 2 Status of organized crime group (O.C.G.) in stimulant offence

	Total		O. C. G.		%	Total Seizure (g)	Seizure from O.C.G. (g)
	Cases	Persons	Cases	Persons			
1986	30,485	19,987	16,094	10,212	51.1	339,150	65,270
1987	29,263	19,667	13,855	8,928	45.4	618,013	335,348
Balance	-1,222	-320	-2,239	-1,284		278,863	270,078
(%)	-4.0	-1.6	-13.9	-12.6		82.2	413.8

Table 3 Status of repeat offender

Year	Total number of persons arrested	Number of repeat offender	Percentage of repeat offender
1986	19,987	10,769	53.9
1987	19,667	10,866	55.2
Balance	-320	97	
(%)	-1.6	0.9	

Table 4. Status of narcotic offences

	Total		Narcotics Control Law		Opium Law		Cannabis Control Law	
	Cases	Persons	Cases	Persons	Cases	Persons	Cases	Persons
1986	1,889	1,523	124	76	404	362	1,361	1,085
1987	2,020	1,628	130	81	367	334	1,523	1,213
Balance	131	105	6	5	-37	-28	162	128
%	6.9	6.9	4.8	6.6	-9.2	-7.7	11.9	11.8

Seizure of major narcotic drugs

	Heroin (g)	LSD (Tab.)	Cocaine (g)	Cannabis resin (g)	Cannabis (g)
1986	1,338	53	320	7,549	165,169
1987	4,667	86	1,607	3,518	132,323
Balance	3,329	33	1,287	-4,031	-32,846
%	248.8	62.3	402.3	-53.4	-19.9

\* 1987 is the figure from January to November









